デジタルカメラ取扱説明書

■このたびはオリンパス デジタルカメラをお買い上げいただき、ありがとうございます。

■ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みください。お読みになった後は大切に保管してください。

■大切なもの（海外旅行など）をお撮りになる前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。

はじめに

このカメラをお使いいただくにあたって、大切なことが書いてあります。ご使用前に必ずお読みください。

本取扱説明書について

●本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番など、最新の情報については、カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

●本書の内容については万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、カスタマーサポートセンターまでご連絡ください。

●本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。

●本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品の故障、オリンパス指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

●本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

●この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

●取扱説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

●飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。

●本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI 基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

●Microsoft およびWindows® は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

●Macintosh およびApple は米国アップルコンピュータ社の登録商標です。

●その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

■カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会(JEITA)で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

この冊子の読み方

ページ

章のタイトル

説明項目のタイトル

操作の前にご確認ください

操作手順

操作するとこうなります

補足情報

【ヒント】…こう使ったら便利、こんな方法がおすすめ、の情報です。

【警告】…故障やトラブルの原因になることの情報です。こんな操作は絶対に避けてください。

【こんな時は】…こんな表示がでたら、こんな状況では、などのコメントです。

【参照】…詳しい情報や関連した情報の掲載してあるページを指示してあります。

注意 **【注意】**…起こりうるトラブルやトラブルに見える現象の説明。

Note **【Note】**…注釈、但し書き事項など、プラスアルファの情報です。

目次

準備をしましょう

これだけで撮影できます

撮ったらすぐに再生、消去できます

もっといろいろな撮影を楽しみましょう

撮影した画像を楽しみましょう

困ったなと思ったら

仕様・用語

こんなことしたい時の索引

本取扱説明書では、順を追って機能を説明していますが、こんなことがしたいという時には、この索引を使うと説明ページがすばやく開けます。

◆ 画像を撮影したい

◆ 画像を見たい

◆こんなことが知りたい

安全にお使いいただくために

この取扱説明書では、製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危　険

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。

⚠ 警　告

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注　意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

電池使用上のご注意

次のことをお守りにならないと、電池の液もれ、発熱、発火、破裂や感電、やけどの原因となります。

⚠ 危　険

1. ニッケル水素電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。
2. ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
3. 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊やアルカリ液の飛散が生じ危険です。
4. ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
5. 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込みなどに直接接続しないでください。
6. 火中への投下や、加熱をしないでください。
7. 電池の液が目に入った場合は、失明の原因になります。こすらずにすぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
8. 電池を誤って飲まないよう乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警　告

1. 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
2. 電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがの恐れがあります。
   - ●このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
   - ●火中への投下、加熱、ショート、分解をしないでください。
   - ●古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
   - ●充電できないアルカリ電池やリチウム電池を充電しないでください。
   - ●＋－を逆にして装着・使用しないでください。
   - ●外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。
3. ニッケル水素電池の充電が所定充電時間を超えても完了しない場合は、充電を中止してください。
4. 液漏れしたり、変色、変形その他異常を見つけた時は使用しないでください。
5. 電池の液が皮膚・衣類へ付着した時は、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
6. カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。

⚠ 注　意

1. オリンパス製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA　キャメディア」専用です。他の機器に使用しないでください。
2. 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。
3. 乾電池と蓄電池、および容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
4. 蓄電池は必ず2本（機種によっては4本）同時に充電してご使用ください。
5. 蓄電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
6. 長期間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ、発熱により、火災やけがの原因になります。
7. 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店またはオリンパスサービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
8. 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など高温の場所で使用・放置しないでください。
9. 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。

その他取り扱い上のご注意

⚠ 警　告

1. フラッシュを人（とくに乳幼児）に向けて至近距離で発光しないでください。目に近づけて撮影すると、視力に回復不可能な程の障害をきたす恐れがあります。
2. 日光および強い光に向けて本製品を使用しないでください。目に回復不可能な程の障害をきたす恐れがあります。
3. 可燃性ガスおよび爆発性ガス等が大気中に存在する恐れのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。
4. この製品を幼児、子供の手の届く範囲に放置しないでください。以下のような事故発生の恐れがあります。

   ●小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

   ●目の前でフラッシュが発光し、視力に回復不可能な程の障害を起こす。

   ●カメラの動作部でけがをする。
5. 湿気やほこりの多い場所にカメラを保管しないでください。火災や感電の原因となります。
6. フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しないでください。また、連続発光後、発光部分に手を触れないでください。やけどの恐れがあります。
7. 万一、水に落としたり、内部に水が入ったりした時は、速やかに電池を抜き、販売店またはオリンパスサービスステーション（裏面参照）にご相談ください。火災や感電の原因となります。

⚠ 注　意

1. 異臭、異常音、もしくは煙が出たりするなどの異常が生じた場合は、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、最寄りのサービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
2. 本製品の分解、改造はしないでください。感電やけがをする原因となります。
3. 濡れた手で操作しないでください。感電の危険があります。
4. 異常に温度が高くなるところに置かないでください。部品が劣化したり、火災の原因となります。
5. カメラをストラップで下げている時は、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。怪我や事故の原因となることがあります。

ご使用の前に

使用条件

●本製品には精密な電子部品が組み込まれています。以下のような場所で本製品を使用または保管した場合、動作不良や故障の原因となる可能性がありますので避けてください。

■直射日光下や夏の海岸など

■高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所

■砂、ほこり、ちりの多い場所

■火気のある場所

■冷暖房器、加湿器のそば

■水に濡れやすい場所

■振動のある場所

■自動車の中

●カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

●レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCDの褪色・焼きつきを起こすことがあります。

●長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

●三脚に取り付ける際、カメラを回さないでください。

●本体の電気接点部には手を触れないでください。

●レンズに無理な力を加えないでください。

＊「安全にお使いいただくために」の項の“その他取り扱い上のご注意”もあわせてよくお読みください。

電池について

●電池はCR-V3（当社製LB-01）リチウム電池パック1個、あるいは単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池2本を使用します。

●撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。

●アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やCR-V3などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。

●マンガン電池および単3リチウム電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらす恐れがあります。

●電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用する時は、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

●電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

●長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。とくに海外では、地域によって入手困難なことがあります。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池を使用の場合は、必ず電池で指定された充電器で完全に充電してからお使いください。

●ニッケル水素電池およびニッカド電池をご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。ニッカド電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

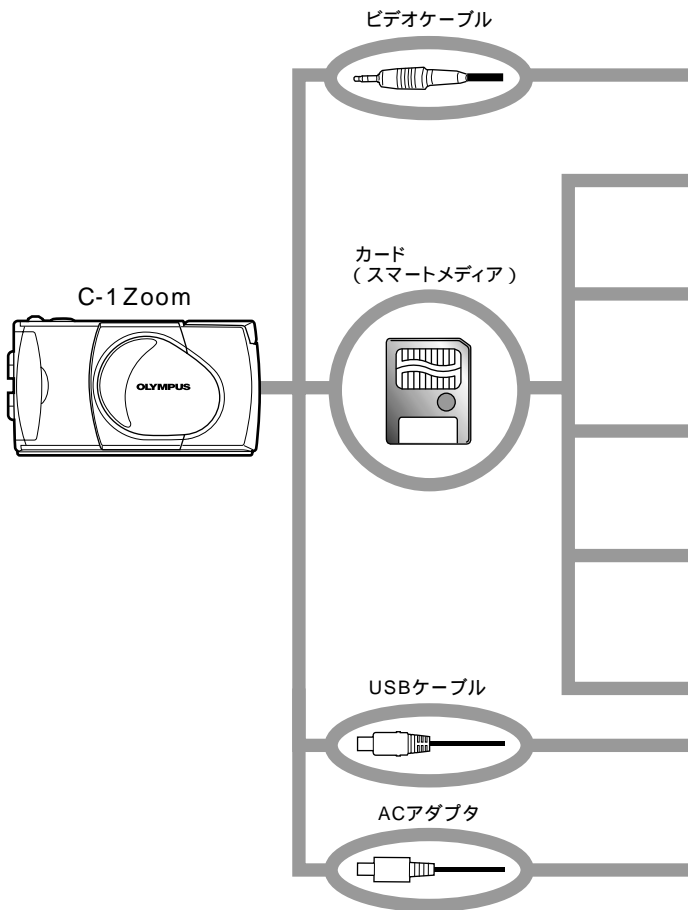
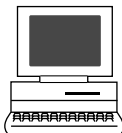
●シール（絶縁被覆）の一部やシールがすべて剥がれている電池（裸電池）は、危険ですので絶対にご使用にならないでください。

●ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
放電（機器使用時）：0℃～40℃
充電：0℃～40℃
保存：－20～30℃
上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。

＊「安全にお使いいただくために」の項の“ 電池使用上のご注意 ”を必ずお読みください。

液晶画面とバックライトについて

- ●本製品の液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトには寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
- ●一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用する時は、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- ●液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。
- ●被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- ●液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
- **●本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

いろいろな楽しみ方ができます

別売のアクセサリーやパソコンを使うと、撮影した画像をさまざまに楽しめます。

外部電源で使う

P.78

このカメラでできること

① 撮影する

- シャッターを押すだけで、フルオートで写せます。
- フラッシュもオートで発光します。
- ファインダのほか、液晶モニタを見ながら撮影できます。
- 光学ズームで、3倍まで拡大して撮影できます。
- デジタルズームで、2倍（光学ズームと連動して最大6倍）まで拡大して撮影できます。
- 付属の8ＭＢスマートメディアで、約24枚※1撮影できます。
- スマートメディアは、何度も消去して使用できます。

② 液晶モニタで画像を見る

- 写したあと、画像をすぐに確認できます。
- 次々と再生したり、４コマ、９コマを同時に再生することもできます。
- 画像を拡大して見ることもできます。

③ 写した画像を楽しむ

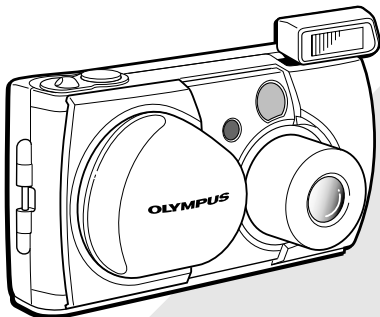
- テレビで画像が見られます。(同梱ビデオケーブル使用)
- プリントできます。
(別売専用プリンタＰ-400／Ｐ-200／Ｐ-330Ｎ使用)
- スマートメディアを写真店※2に持っていけば、プリントできます。

④ 撮影した画像をパソコンで楽しむ

- パソコンに付属のUSBケーブルで接続して画像を取り込み、保存できます。（USB端子付パソコンの場合）
- パソコン本体のハードディスクに保存するほか、フロッピーディスク、CD-RやMOなどに書き込んで保存できます。
- 文字を入れたり、トリミング(拡大・切り取り)したりなど、画像をさまざまに加工できます。※3
- パソコンでEメール※3に画像を添付することもできます。

※1：画質モードがHQの場合。（HQはご購入の際に設定されているモードです。）

※2：写真店によっては対応できない場合があります。

※3：このカメラ単独では画像の編集やEメール添付送信などはできません。パソコンとアプリケーションソフトを組み合わせてご使用ください。

準備をしましょう

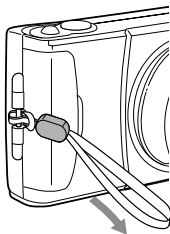
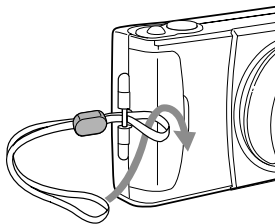
この章では、このカメラを使う前に準備しておきたいこと、知っておきたいことを説明します。正しく準備してから撮影を楽しみましょう。

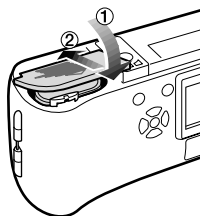
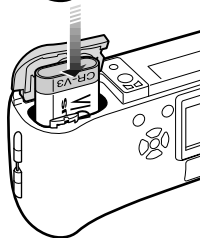
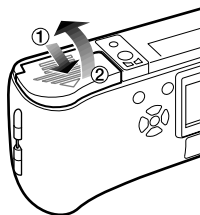
●各部の名称を知りましょう
●付属のストラップをつけましょう
●電池を入れましょう
●電池の上手な選び方
●付属のカード(スマートメディア)を入れましょう
●カードの上手な選び方
●新しいカードを使う時(フォーマット)
●日付、時刻をセットしましょう
●カメラの正しい構え方を練習しましょう

各部の名称を知りましょう

ファインダ窓
フラッシュ
（レンズバリアを開くと自動的にポップアップします。収納は、レンズバリアを閉じた後、手でフラッシュを押し込んでください）
OLYMPUS
レンズ
（レンズバリアを開くと自動的にせり出します）
セルフタイマランプ
（セルフタイマの作動を表示します）
ファインダ接眼窓
AFターゲットマーク
（ピントを合わせたいものにこのマークを合わせます）
オレンジランプ
（フラッシュの充電・発光の確認をします）
（カードへのアクセス中に点滅します）
緑ランプ
（オートフォーカスの確認をします）
（パソコンと接続中に点灯します）
液晶モニタ
（撮影する画像や再生画像を見るほか、さまざまな情報を表示します）
十字ボタン
（メニュー選択、コマ送りなどの操作を行います）
OK
OK／メニューボタン
（メニューの表示や設定した内容の決定を行います）
液晶モニタボタン
（液晶モニタの表示、再生モードのON/OFFなどを行います）

付属のストラップをつけましょう

1. **カメラにストラップを取り付けます。**

注意 上記にしたがって正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

電池を入れましょう

1. **電池カバーを矢印①の方向に引きます。**

2. **電池カバーを矢印②の方向に引き上げます。**

3. **図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。**

4. **電池カバーを矢印①の方向に引き下げます。**

5. **電池カバーを矢印②の方向に、カチッという音がするまで押し込みます。**

⇒電池カバーがロックされます。

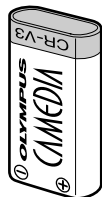
電池カバーが閉まりにくい時は無理に押さず、電池カバーをカバーの刻印の「⇩」の方向へ押しながら閉めてください。

Note 使用する電池については、次ページの「電池の上手な選び方」をお読みください。

電池の上手な選び方

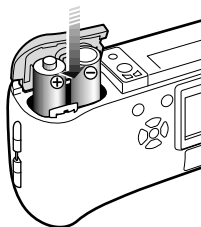
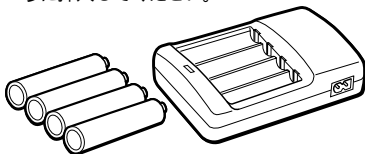
■ リチウム電池パック

●ＣＲ-Ｖ３リチウム電池パック（当社製ＬＢ-０１）は寿命が長く、旅行などにも便利です。

電池方向を間違わないように挿入してください。

注意 リチウム電池パックは充電できませんのでご注意ください。

■ 充電式電池

●オリンパス製ニッケル水素電池（充電器セットBU-40SNH)は､1日撮影したら､おやすみ中に充電するなど､繰り返し使用でき経済的です。

右図に従って電池方向を間違わないように挿入してください。

■ アルカリ電池

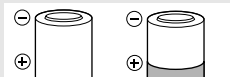
●旅先などで電池が消耗したら､どこででも手に入りやすい単3形アルカリ電池をご使用いただけます。

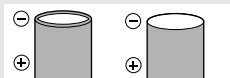
●ご使用の銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。アルカリ電池でご使用の際は液晶モニタをこまめに切るか、ファインダを使って撮影してください。

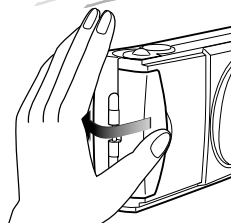
●液晶モニタを見ながら撮影する場合、電池寿命が極端に短い場合がありますが故障ではありません。液晶モニタを消して、ファインダを見て撮影すると継続してご使用になれます。

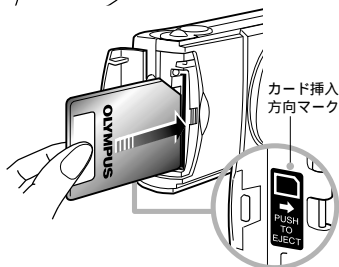
●CR-V3（当社製LB-01)リチウム電池パックは、充電できませんのでご注意ください。
●アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、とくに低温では劣化します。リチウム電池パックまたはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
●マンガン電池は使用できません。電池に関するご注意をお読みください。（☞ P.14）
●電池室内の電極が汚れていると、電池の寿命が著しく短くなります。電池を外した状態で内部をさわらないでください。
●電池を外した状態で約1時間放置すると、時刻／日付の設定はお買上の際の設定に戻ります。
●カメラの電源が入っている時、電池やACアダプタを抜くと、日時設定が消えることがあります。電池交換の際は必ず電源をOFFにしてから行ってください。
●消耗した電池を入れたままで放置しておくと警告音が鳴る場合があります。この場合は電池を交換してください。

外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れがある電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池も絶対にご使用にならないでください。

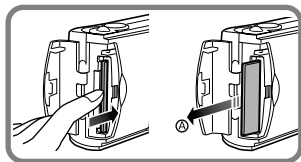
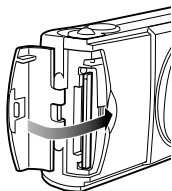
下記のような形状の電池はご使用になれません

●シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの

●負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの

●負極（マイナス面）が平らな電池。
（負極の一部がシールに覆われていても、また覆われていなくても使用できません）

付属のカード(スマートメディア)を入れましょう

レンズバリアは閉じていますね
液晶モニタには何も表示されていませんね

1. **カードカバーを開けます。**

2. **カードを図の方向に差し込みます。一度軽く突きあたりますが、さらに奥まで押し込んでください。**
カード挿入方向はカードカバー内側のシールにも記載してあります。

3. **カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。**

⇒これで撮影の準備ができました。

カードを抜く時は
カードを押し込むと、少し飛び出します。飛び出したカードを指先で Ⓐの方向に引き抜きます。

警告
カメラの電源が入っている時は、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。
カード内の画像データが破壊されることがあります。破壊された画像データの復旧はできません。

注意
カードは精密機器です。無理な力や衝撃を与えないでください。
カードの金色の金属部分には直接手を触れないでください。

カードの上手な選び方

カードをもう1枚
●旅行などで枚数をたくさん撮影したい時には、付属の8MBのカードのほかに、もう1枚用意することをおすすめします。
●撮影枚数はカードの容量と画質などによって異なります。下表をご参照のうえお選びください。

撮影可能枚数 (おおよその枚数です)

画質モード	SQ（スタンダードクォリティ）	HQ（ハイクォリティ）	SHQ（スーパーハイクォリティ）
画像サイズ / スマートメディアの記憶容量	640×480	1280×960	
8 MB	約82枚	約24枚	約8枚
16 MB	約165枚	約49枚	約17枚
32 MB	約331枚	約99枚	約35枚
64 MB	約664枚	約199枚	約71枚
128 MB	約1331枚*	約399枚	約142枚

＊撮影可能枚数が999を越える場合、液晶モニタへの表示はすべて「999」と表示されます。

注意 **市販の5Vカードは使用できません。当社のカードまたは市販の3V（3.3V）カードをご使用ください。**

〈こんなカードは〉

オリンパス製・Lexar製以外の市販のカードや、パソコンなど他の機器でフォーマット(初期化)したカードは、このカメラで認識されないことがありますので、ご使用になる前にあらかじめこのカメラでフォーマット(初期化)してください。

〈3段階の画質設定について〉

SQ　Eメールに添付する時。パソコンで画像を見るだけでよい時。枚数をたくさん撮りたい時。

HQ　SQとSHQの中間の画質。パソコンで再生する時も、ある程度までなら拡大表示できます。（お買上げの際の画質モード）

SHQ　きれいにプリントをしたい時。大きくプリントをしたい時。パソコンで画像を加工したい時。

Note
●画質モードや画質設定については「画質を変えるには」（ ☞ P.60）もお読みください。
●撮影対象によりカードに記録するデータ量が異なるため、枚数が若干増減することがあります。
●撮影ごとにカウンタが減らなかったり、1枚消去しても増えない場合がありますが故障ではありません。撮影対象により記録するデータ量が異なるための現象です。
●使用できるカードは4MB以上のカードです。
●カードのお取り扱いについては、同梱のスマートメディアの取扱説明書をお読みください。

新しいカードを使う時(フォーマット)

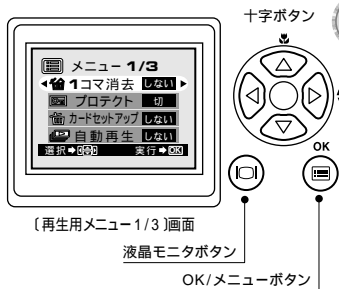
オリンパス製ではないカードや、パソコンでフォーマット(初期化)あるいは使用したカードは、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

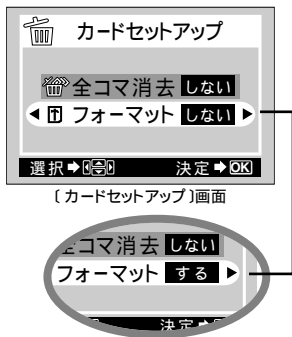
操作手順

液晶モニタボタン をしばらく押して再生モード(☞ P.48)にしていますね

〔再生用メニュー1/3〕画面

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔再生用メニュー1/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ ボタンを押して、「カードセットアップ」を選択すると、「する」に表示が変わります。**

3. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒カードセットアップ画面になります。

〔カードセットアップ〕画面

4. **十字ボタンの△▽を押して、「フォーマット」を選択し、◁▷を押して「する」を選択します。**
「しない」を選択してOK/メニューボタン⊜を押すと、再生メニューに戻ります。

5. **OK/メニューボタン⊜を押します。**

⇒ファインダ横のオレンジランプが点滅し、液晶モニタに処理状態を表すバーが表示されます。

「画像が記録されていません。」という警告画面が表示されたら処理は終了です。

警告画面

Note 別売のオリンパス製カードを購入した時は、フォーマットする必要がありません。そのまま使用できます。

注意 画面に左の表示が出た時は、そのまま使用できません。フォーマットを行なってください。

フォーマットの前にご確認ください

注意

- **プロテクトをかけた画像を含む、カード内のすべての画像が消去されます。使用済みカードをフォーマットする時には、大切なデータを消さないようにご確認ください。一度フォーマットしたカードの画像は復元できません。**
- **ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは、フォーマットできません。ライトプロテクトシールをはがしてからフォーマットしてください。はがしたライトプロテクトシールは再使用しないでください。**
- **フォーマットを実行すると、途中で中止・中断はできません。**

日付、時刻をセットしましょう

操作手順

液晶モニタボタン をしばらく押して 再生モード（☞ P.48）にしていますね

〔再生用メニュー1/3〕画面

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

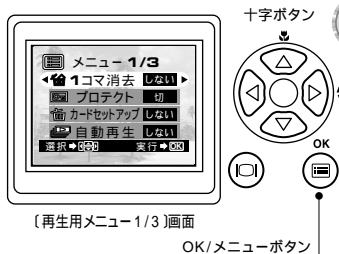
〔再生用メニュー3/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「メニュー3/3」を表示させ、「日時設定」を選択します。**

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、日時設定画面を表示させます。**

日時設定
Y—M—D
'01.01.01
00:00
選択 終了 OK

〔日時設定〕画面

4. **十字ボタンの △ ▽ を押して日付の順序を**
Y-M-D （年・月・日）
M-D-Y （月・日・年）
D-M-Y （日・月・年）
の中から選択し、
十字ボタンの ▷ を押します。
⇒数値の設定に移動します。

〔日時設定〕画面

5. **十字ボタンの△▽を押して最初の数値(年)を設定し、▷を押します。**
⇒次の数値(月)に移動します。

〔日時設定〕画面

6. **同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。**

Note お買上の際の設定は2001年を表す「'01」です。

日時設定
'01.02.14
14:02
選択
終了 OK

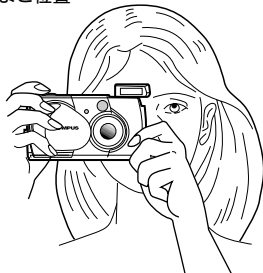
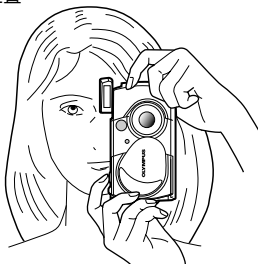
〔日時設定〕画面

7. **0秒の時報に合わせて、OK/メニューボタンを押します。**
⇒日時が設定され、「メニュー3/3」画面に戻ります。

> **注意** 電池を抜いて放置したり電池が消耗していると液晶モニタに「日付を設定して下さい」と表示される場合があります。その場合、日付・時刻のセットをしてから撮影をしてください。

Note 撮影用の「メニュー」画面からでも日時設定ができます。

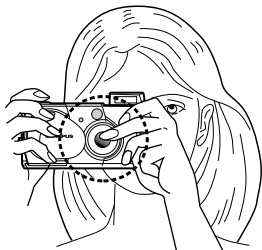
カメラの正しい構え方を練習しましょう

よこ位置

たて位置

〈正しい構え方〉

両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。

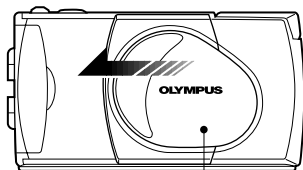
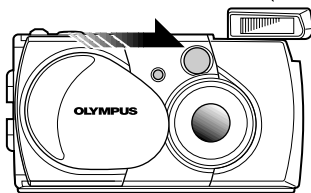
たて位置の時は、右手でしっかりカメラを持って、静かにシャッターボタンを押します。

〈お気をつけください〉

レンズとフラッシュに、指やストラップがかからないようにご注意ください。

シャッターを押し込んだ時にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

これだけで撮影できます

ここでは、覚えておきたい基本的な撮影のしかたについて詳しく説明します。気軽に撮影するには、この章を読むだけで十分ですが、さらにさまざまな撮影を楽しみたい時は、「もっといろいろな撮影を楽しみましょう」の章をご覧ください。

撮影をするには

1. **撮影をはじめる時**
……フラッシュがポップアップするまでレンズバリアを開きます。
⇒カメラの電源が入り、レンズがせり出します。

2. **撮影を終える時**
……レンズバリアを閉じます。
⇒カメラの電源が切れます。フラッシュは手で押し込んでください。

電池を節約するには

〈スリープモード〉

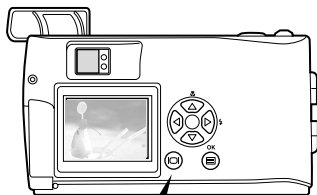
レンズバリアを開いたまま1分間操作しないでいると、「スリープモード」になります。電池の消費を少なくするモードで、液晶モニタを点灯させていても自動的に消えます。
撮影を再開するには、次のいずれかの操作を行なってください。

- **●シャッターボタンを軽く押す。**
- **●レンズバリアをいったん閉めて、再び開く。**
- **●十字ボタン、OK/メニューボタン ⊜ 、液晶モニタボタン ◎ 、ズームレバーのいずれかを押す。**

Note

- **●電源を切ったり、電池を交換しても、撮影した画像はカードに保存されます。**
- **●しばらく撮影しない時は、できるだけレンズバリアを閉じて電源を切っておいてください。**
- **●レンズバリアを閉じる際、レンズバリアをレンズ側へ少し動かしてレンズを格納します。レンズが完全に納まってからレンズバリアを閉じます。**

電源が入っている時は、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されることがあります。

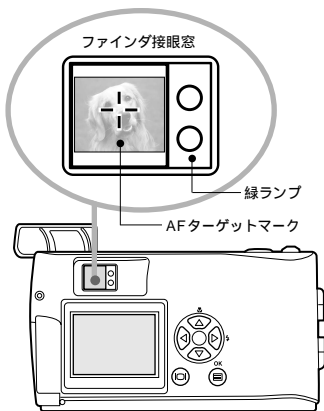
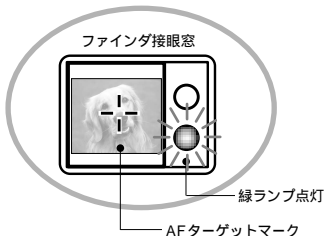
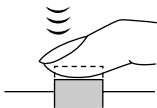
●撮影中レンズバリアを開いたままの状態でカードに記録した画像を再生するには（クイックビュー再生）

1. **液晶モニタボタン をすばやく 2 回押します。（ダブルクリック）**
⇒すぐに再生モードになり液晶モニタに画像を表示します。
（☞ P.48）

2. **シャッターボタンまたは液晶モニタボタン を押す。**
⇒すぐに撮影モードに戻り撮影をすることができます。

3. **レンズバリアを閉じます。**
⇒液晶モニタが消灯し、電源が切れます。

Note シャッターボタンを押して撮影すると、確認用の画像が液晶モニタに数秒間表示されます。（液晶モニタを消していても自動的に表示されます。）

ファインダを見て撮りましょう

[シャッターボタンの押し方とピント合わせ]（半押し／全押し）

操作手順

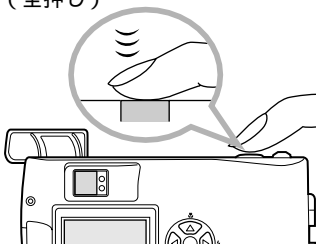
レンズバリアは開いていますね

1. **ファインダのAFターゲットマーク（-¦-）に撮りたいものを合わせて、構図を決めます。**

（半押し）

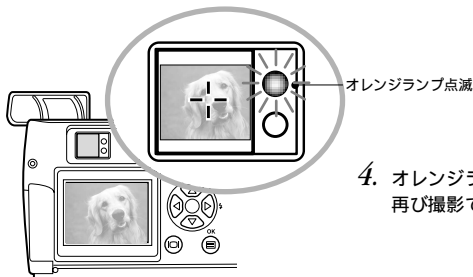
2. **シャッターボタンを軽く押します。（半押し）**

⇒ファインダ横の緑ランプが点灯します。（この状態を半押しといいます。）ピントと露出が自動的に決まります。シャッターボタンを半押ししている間、ピントや露出は固定されます。

注意
- **緑ランプが点滅した時は、ピントが合っていません。シャッターボタンから指を離し、カメラを構えなおして再びシャッターボタンを軽く押してください。****（☞ P.46）**
- **被写体までの距離が0.5m以内の時は、マクロ撮影モードに設定してください。****（☞ P.67）**

3. **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます。（全押し）**

⇒撮影され、「ピピッ」と音が鳴ります。

⇒ファインダ横のオレンジランプが点滅し(画像がカードに記録中であることを示しています)、しばらくすると消えます。

⇒撮影できた場合、画像が液晶モニタにしばらく表示されます。

4. **オレンジランプの点滅が消えると、再び撮影できます。**

注意

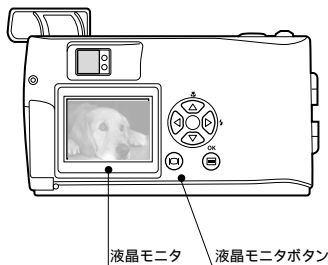
- **シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すと、カメラが動いて画像がぶれることがあります。**
- **次の撮影ができない場合は、数秒待って、オレンジランプが消えたことを確認してから、撮影し直してください。**
- **撮影後のオレンジランプの点滅は、画像を処理していることを表しています。**
- **フラッシュを発光した時、オレンジランプははやい点滅の後おそい点滅となります。おそい点滅はフラッシュの充電中を表しています。フラッシュの発光を必要とするときは、おそい点滅が終了するまで撮影できません。**
- **次の撮影に入るまでの待ち時間や撮影可能枚数は、画質モードにより異なります。**

警告

オレンジランプのはやい点滅中には、絶対にカードカバーを開けたり、電池やカードを抜かないでください。いま撮影した画像が記録されないだけでなく、記録済みの画像が破壊される恐れがあります。

液晶モニタを見て撮りましょう

操作手順

レンズバリアは開いていますね

1. **液晶モニタボタン を押します。**
⇒液晶モニタが点灯します。

2. **液晶モニタを見ながら、構図を決めます。**

3. **シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてから全押しします。(ファインダを使った撮影手順と同じです) (** **☞ P.38****)**
⇒撮影後、ファインダ横のオレンジランプが点滅し、しばらくすると消えます。

●被写体に斜めの線があると、液晶モニタでギザギザに見えることがありますが、故障ではありません。
●晴天下のように明るい場所で撮影すると、液晶モニタにわずかに縦スジが入る場合がありますが、故障ではありません。
●液晶モニタの画像は構図を確認するためのもので、正確なピントや露出を表示するものではありません。画像のピントや露出は、撮影後にテレビ画面やパソコンで確認してください。(**☞ P.79, 85****)**

警告

液晶モニタやそのまわりを強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりする恐れがあります。

ファインダと液晶モニタを使い分けましょう

スナップや風景など（約1.5m〜遠距離）

ファインダ

手ぶれしないよう、脇をしめてカメラをしっかり構えましょう。

人物のアップなど（約0.5m〜1.5m）

**ファインダ
または
液晶モニタ**

ファインダを使って撮影できますが、液晶モニタを使うと良い場合もあります。詳しくは、次ページのコラムを参照してください。

特別に近くを撮影する時（0.2m〜0.5m）

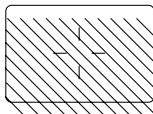
**液晶モニタ
（マクロ機能）**

0.5m以内のものを撮影する時は、マクロ機能（☞ P.67）を使って撮影してください。マクロ機能を使わないでも撮影できますが、ピントが合わずに正しく撮れないことがあります。

またファインダで見ている画面の範囲と実際に撮影される画面の範囲に多少のズレが生じます。近くを撮影する時は液晶モニタで画像を確認することをおすすめします。

注意 **被写体が撮影可能な距離（通常：0.5m、マクロ：0.2m）より近い場合はシャッターボタンを全押ししてもシャッターが切れないことがあります。このような場合は少し離れて撮影してみてください。**

《ファインダと液晶モニタの特徴》

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。電池の消耗が少ないことも特長です。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影する時に、ファインダで見える範囲と撮影できる画像との間にズレが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るい時や暗い場合では見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽につぎつぎと撮影したい時に。	実際に写る範囲を確認しながら撮影したい時に。マクロ機能(☞ P.67)を使うと、自動的に液晶モニタが点灯します。

●ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。

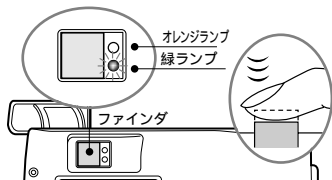
●写すものとの距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲は、図のように、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

注意 写すものまでの距離が0.5m以内の時は、マクロ機能をお使いください。マクロ機能（ ☞ P.67）を使わなくても撮影できますが、ピントと露出が合わない場合があります。

ファインダ横のランプや液晶モニタを確認しましょう
（撮影モード時）

操作手順

レンズバリアは開いていますね

シャッターボタンを半押ししてください。
⇒ファインダ横のランプが光ります。

❶ ファインダ横のランプ

ランプの状態	カメラの状態	意味／注意
緑ランプ点灯	オートフォーカスでピントが合っています。	そのままシャッターボタンを押して撮影できます。
緑ランプ はやい点滅	・ピントが合っていません。 ・カードに下記の問題があります。	シャッターボタンを押しても撮影できますが、ピントが合わない場合があります。

〈確認しましょう〉カードの準備ができていないのは、次のような場合です。
●カードが入っていない。　●カードカバーが開いている。
●カードに空きがない。　●カードにライトプロテクトシールが貼ってある。

ランプの状態	カメラの状態	意味／注意
オレンジランプ 消灯	フラッシュが充電されています。	そのままシャッターボタンを押して撮影できます。
オレンジランプ 点灯	フラッシュの発光準備ができています。	そのままシャッターボタンを押すとフラッシュ撮影できます。
オレンジランプ おそい点滅	フラッシュが充電中です。	いったんシャッターボタンから指を離し、オレンジランプが消灯するまで待ってください。
	フラッシュが発光禁止に設定されていて、フラッシュの発光が必要です。	フラッシュの設定をオートまたは強制発光にしてください。
緑・オレンジ 両ランプ おそい点滅	電池が消耗しています。	電池を交換してください。
オレンジランプ はやい点滅	カードが書き込み中、または読み出し中になっています。	カードカバーを開けたり電池を抜いたりしないでください。

❷ 液晶モニタ

液晶モニタボタンを押して液晶モニタをONにしている場合、左の項目が画像の上に表示されます。

項目	表示	説明
撮影可能枚数	888	今入っているカードで、あと何枚撮影できるか、おおよその枚数を表示します。
電池の状態	(緑表示)	電池残量は十分です。(表示は自動的に消えます)
	(赤表示)	電池の残量が少なくなりました。新しい電池と交換してください。撮影は可能ですが、途中で電池がなくなる恐れがあります。(なるべくファインダで撮影し、液晶モニタは切ってください)
画質モード＊1	HQ	撮影する画像のきめ細かさを表示します。(☞ P.60) お買上の際はHQに設定されています。(SQとSHQの中間の画質)
	SQ	(☞ P.60) パソコンで画像を見るだけでよい時。
	SHQ	(☞ P.60) きれいにプリントしたい時など。
フラッシュモード	オート (表示なし)	オート発光＊1 (☞ P.62, 63) お買上の際はオートに設定されています。
		赤目軽減＊1 (☞ P.63) 予備発光で赤目現象を減らします。
		強制発光＊2 (☞ P.63) 必ず発光させたい時。
		夜　　景＊2 (☞ P.64)
		発光禁止＊2 (☞ P.64) フラッシュを光らせたくない時。
ドライブモード＊2	(連写)	連続撮影に切り替えていることを表示します。(☞ P.69) お買上の際はシングル(1コマ撮影)に設定されています。 液晶モニタに1コマ撮影表示はされません。
	(セルフ)	セルフタイマー設定を表示します。(☞ P.68) お買上の際はセルフタイマーなしに設定されています。

露出補正＊2	+1.0	露出の補正量を表示します。（☞ P.71） お買上の際は露出補正なしに設定されています。
マクロモード＊2	(マクロアイコン)	マクロ機能に切り替えていることを表示します。（☞ P.67） お買上の際は一般撮影に設定されています。
デジタルズーム＊2	T W	デジタルズームの表示です。Tは望遠側、Wは広角側の表示です。（☞ P.66） お買上の際はデジタルズームなしに設定されています。
ホワイトバランス＊2	オート（表示なし）	画像の色を調整する機能を使っていることを表示します。（☞ P.73） お買上の際はオートに設定されています。
	(晴天アイコン)	晴　天（☞ P.74）
	(曇天アイコン)	曇　天（☞ P.74）
	(電球アイコン)	電　球（☞ P.74）
	(蛍光灯アイコン)	蛍光灯（☞ P.74）

＊1：設定を変更した際、電源オフにしても設定は保持されます。
＊2：設定を変更した際、電源オフでお買上時の設定に戻ります。

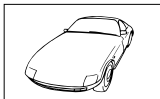
Note 液晶モニタOFFの時でも、OK/メニューボタン を押すとメニュー画面が表示されます。（撮影時のみ）
再度OK/メニューボタン を押すと、液晶モニタはOFFの状態に戻ります。

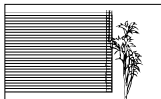
注意
●電池の残量は、使用する電池の種類によって残量表示のタイミングが変わりますのでご注意ください。
●ニッケル水素電池をお使いの場合は、リチウム電池パックをお使いの時よりも早期に電池残量警告が点滅します。

液晶モニタに（!マーク）などが表示される場合があります。P.99のエラーメッセージをご覧ください。

ピントが合わない時は（フォーカスロック）

下の図のようなものにカメラを向けると、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。

ファインダ横の緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません。

画面中央にメリハリがない被写体

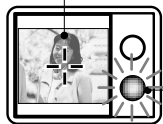
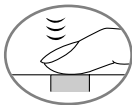
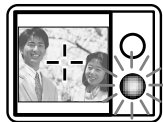
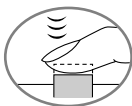
画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

ファインダ横の緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

〈どうすれば〉撮りたいものと同距離にあるものであらかじめピントを合わせて（フォーカスロック）撮影してください。

フォーカスロックの操作手順

1. **レンズバリアを開けます。**
   ⇒撮影モードで電源が入ります。
2. **ファインダをのぞき、撮影したいものにAFターゲットマーク（-¦-）を合わせます。ピントが合いにくいものや、速く走るものの場合は、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。**
3. **シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。**
   ⇒ピントが合い、同時に露出も固定されます。
4. **シャッターボタンを半押ししたまま撮影したい構図に変え、シャッターボタンを全押しします。**

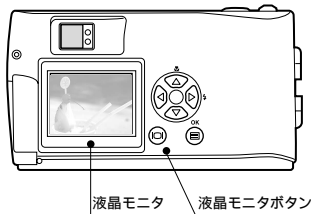
撮ったら すぐに再生、消去できます

この章では、何枚か撮影したあとに、カメラの液晶モニタで画像を見る方法をご説明します。テレビやパソコンで見る方法や、印刷する方法については、「撮影した画像を楽しみましょう」の章をご覧ください。

撮影した画像を見るには

〔液晶モニタ〕表示

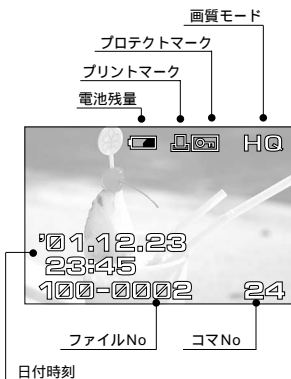
操作手順

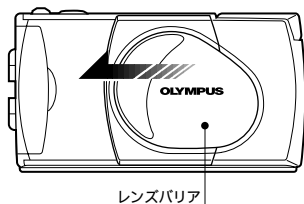
カードをセットし、レンズバリアは閉じていますね

1. **液晶モニタボタン をしばらく押します。**

⇒電源が入り、再生モードになります。しばらくすると最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

⇒左の図の［液晶モニタ］表示が液晶モニタに表示されます。

⇒しばらくすると「コマNo.」「電池残量」マーク以外の表示が消えます。

注意
- **1枚も撮影されていない場合は、液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。**
- **カードに問題があると、メッセージが表示されます。（ P.99）**
- **電池残量が残り少ない場合は、電池残量警告の赤マークが点灯します。**

2. **再び液晶モニタボタン を押すと、液晶モニタが消灯し、電源が切れます。**

電池で使用している場合は1分間なにも操作しないと自動的に電源が切れます。電源が切れた時は再度液晶モニタボタン を押して操作を行ってください。

●再生からすぐに撮影に移りたい時は

1. **レンズバリアを開く。**

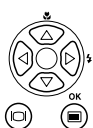
⇒液晶モニタが消灯して、撮影モードになり、そのまますぐに撮影できます。

Note

●電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、これは故障ではありません。

●晴天下のような明るい場所で撮影した画像には、わずかに縦スジが入る場合がありますが、故障ではありません。

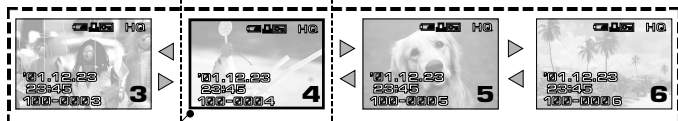
●他のカメラで撮影した画像は再生できない場合があります。また、TIFF、RAWデータで撮影した画像は再生できません。

他の画像を見るには

液晶モニタボタン をしばらく押して、最後に撮影した画像を表示していますね

a. **コマ送り**

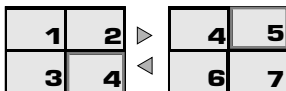
十字ボタンの ◁ ▷ で再生したいコマを選びます。

b. **拡大**

ズームレバーを T 側にスライドすると表示画像の中央が2倍に拡大されます。
2倍拡大表示の時に W 側にスライドさせると1倍表示に戻ります。

c. **インデックス表示**

ズームレバーを W 側にスライドすると表示画像を含む4コマが一覧できます。（表示していた画像が緑の枠で囲まれます。）
4コマ表示からもう一度 W 側にスライドさせると9コマが一覧できます。（表示していた画像が緑の枠で囲まれます。）
9コマ表示から T 側にスライドさせると4コマ表示に、もう一度スライドさせると1コマ表示に戻ります。

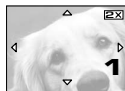
〈C. のつづき〉

4コマ（9コマ）表示の時に十字ボタンの ▷ を押すと緑の枠が次のコマに移動し、最後のコマに来てからさらに押すと、次のインデックスを表示します。
同様に十字ボタンの ◁ を押すと枠が前のコマに移動し、最初のコマに来てからさらに押すと、前のインデックスが表示されます。

また、十字ボタンの △ ▽ を押すと4コマ（9コマ）移動します。
（1コマ表示の時は10コマ移動します。）

詳しく見たい部分を拡大する

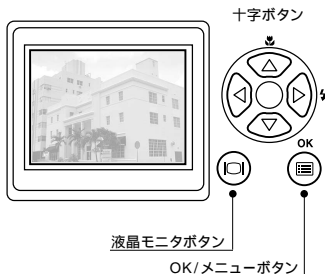
拡大の操作と十字ボタンの操作で画像中央以外のところも拡大して見ることができます。

1. **T 側にスライドさせて画像の中央を2倍に拡大します。**

⇒画面の上下左右に◁△▽▷マークが表示されます。

2. **十字ボタンを押して画像を上下左右に動かして見たい部分を表示します。**

3. **W 側にスライドさせると、1倍表示に戻ります。**

撮影した画像を1コマずつ消します

必要ない画像を消去すると、撮影できる残りの枚数が増えます。

操作手順

液晶モニタボタン をしばらく押して、再生モードにしていますね

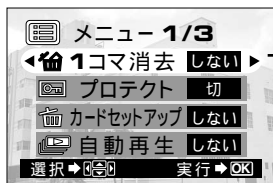
1. **十字ボタンの◁ ▷ を押して、消去したいコマを表示させます。**
（4コマ表示、9コマ表示の場合でも選択できます。）

2. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔再生用メニュー1/3〕画面

3. **十字ボタンの△ ▽ を押して、「1コマ消去」を選択します。**

4. **十字ボタンの◁ ▷ を押して、「する」を選択します。**

5. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒画像が消去されます。
画像消去中には、ファインダ横のオレンジランプが点滅します。

注意 **消去された画像は元に戻せません。消去する時には、大切なデータを消さないように確認してください。**

<1コマ消去を中止するには>

手順4で「しない」を選択すると中止できます。

撮影したすべての画像を消します

カードは何も記録されていない状態に戻ります。

〔再生用メニュー1/3〕画面

操作手順

液晶モニタボタン をしばらく押して、再生モードにしていますね

1. **OK/メニューボタン を押します。**

2. **十字ボタンの△ ▽を押して、「カードセットアップ」を選択すると、「する」に表示が変わります。**

3. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒「カードセットアップ」画面が表示されます。

〔カードセットアップ〕画面

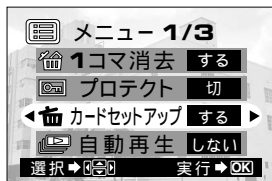
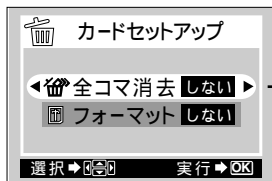
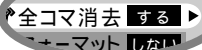
4. **十字ボタンの△ ▽を押して、「全コマ消去」を選択します。**

5. **十字ボタンの◁ ▷を押して、「する」を選択します。**

6. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒全コマが消去されます。

＜中止するには＞

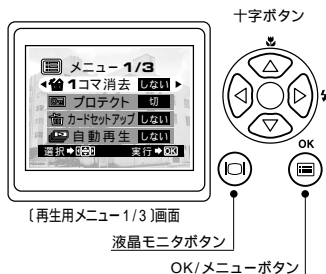
手順5で「しない」を選択してOK/メニューボタン を押します。

Note **プリントのカード予約（☞ P.82）が設定されているカードでは、消去時間が長くなる場合がありますが、故障ではありません。**

消去する前に確認してください

注意
- **消去したい画像にプロテクトが設定されている場合、およびカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は消去できません。（☞ P.56, 57）**
- **カードのお取り扱いについては、同梱のスマートメディアの取扱説明書をお読みください。**

警告
消去中にカードカバーを開けたり、電池やACアダプタ、またはカードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。消去中にこのような操作は絶対に行わないでください。

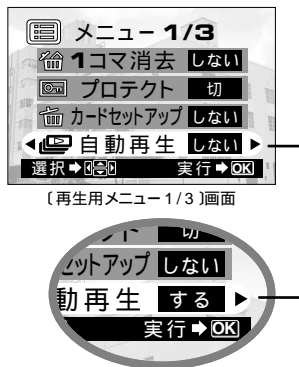
スライドショーを楽しみましょう（自動再生）

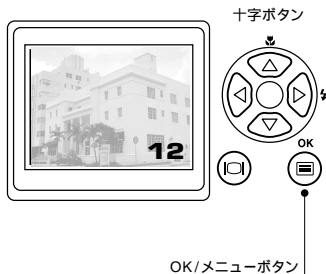
カード内の画像を順番に、自動的に液晶モニタ上で再生します。テレビにつなげて大画面でも表示することができ、会議などでのプレゼンテーションや、撮影したカード内のすべての画像を確認するのに便利です。

〔再生用メニュー1/3〕画面

操作手順

液晶モニタボタン をしばらく押して、再生モードにしていますね

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔再生用メニュー1/3〕画面

2. **十字ボタンの△ ▽を押して、「自動再生」を選択し ◁ ▷ を押して「する」を選択します。**

3. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒1コマ3秒ずつ「自動再生」を開始します。

<自動再生を中止するには>

4. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒自動再生を中断し、液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。この時「自動再生」が「しない」で選択されています。

5. **そのままOK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒自動再生を中止します。

Note 手順5で「する」を選択してからOK/メニューボタン ▤ を押すと、中断した時点から自動再生が再開されます。

誤って消去しないために（プロテクト）

大切な画像を消してしまわないよう、プロテクトをかけることをおすすめします。プロテクトをかけておくと、誤って消去の操作をしても画像が消えることはありません。

〔再生用メニュー1/3〕画面

液晶モニタボタン

OK/メニューボタン

操作手順

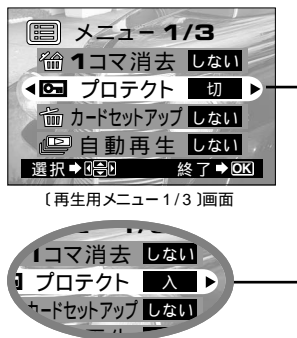
1. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、プロテクト（消去防止）したいコマを選択します。**
（4コマ表示、9コマ表示でも選択できます）

2. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔再生用メニュー1/3〕画面

3. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「プロテクト」を選択します。**

4. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「入」を選択します。**

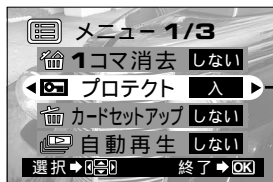
5. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒選択した画像にプロテクト（消去禁止）が設定され、プロテクトマーク が画像の右上に表示されます。プロテクトマーク はしばらくすると消えます。

プロテクトマーク表示

Note **プロテクトは電源を切っても解除されません。**

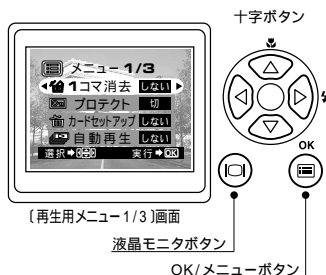
<プロテクトをはずすには>

〔再生用メニュー1/3〕画面

6. **OK/メニューボタン を押し、「プロテクト」を選択します。**
十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「切」を選択します。

7. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒プロテクトが解除され、プロテクトマーク が消えます。

注意
- **カードをフォーマット（初期化）すると、プロテクトした画像も消去されます。**
- **ライトプロテクトシールの貼ってあるカードには、プロテクトを設定できません。同梱のスマートメディアの取扱説明書をお読みください。**

液晶モニタの明るさを調節します

日中や暗い場所での撮影や再生時には、液晶モニタ表示の明るさを調節し、より見やすくすることができます。

〔再生用メニュー1/3〕画面

操作手順

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

メニュー 3/3
日時設定 '01.12.23 23:45
モニタ調整 − +
選択 終了 OK

〔再生用メニュー3/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「モニタ調整」を選択します。**

〔モニタ調整〕画面

3. **▷（＋明るく）、◁（−暗く）を押して、好みの明るさに調節します。**

4. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒すべての画像が設定した明るさで見られます。

Note
- **設定した明るさは、電源を切っても記憶されています。**
- **撮影用の「メニュー」からも、モニタ調整ができます。**

もっと
いろいろな撮影を
楽しみましょう

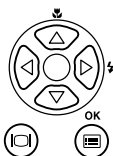
予備のカードを用意する、フラッシュを使う、連写する、接写する、露出補正をするなど、シチュエーションに合わせた撮影の仕方をご紹介します。これをマスターすれば、撮影意図に合わせた上手な画像が撮れるようになります。

画質を変えるには（画質モード）

高画質できれいに撮るか(ＳＨＱ)、枚数をたくさん撮るか(ＳＱ)が選べます。お買上の際の設定はＨＱです。

３段階の画質設定について

Ｓ Ｑ （スタンダードクォリティ）	**Ｅメールに添付する時。パソコンで画像を見るだけでよい時。枚数をたくさん撮りたい時。**
Ｈ Ｑ （ハイクォリティ）	**ＳＱとＳＨＱの中間の画質。パソコンで画像を見る時やプリントする時。(お買上の際の画質モード)**
ＳＨＱ （スーパーハイクォリティ）	**きれいにプリントしたい時。大きくプリントしたい時。パソコンで画像を加工したい時。**

〔撮影用メニュー1/3〕画面

操作手順

レンズバリアは開いていますね

1. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、撮影用の「メニュー２/３」を表示させ、「画質」を選択します。**

〔撮影用メニュー2/3〕画面

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押すと、順に「SHQ」⟷「HQ」⟷「SQ」と表示されます。設定したい画質モードを表示させます。**

4. **OK/メニューボタン を押します。**

⇒画質が設定され、撮影画面に戻り、設定した画質モードでの撮影可能枚数が表示されます。

Note

- **画質は、使用途中のカードでもコマごとに設定を変えて記録することができます。**
- **各画質での撮影可能枚数や画像の大きさ(ピクセル)については「カードの上手な選び方」(☞ P.29)をご覧ください。**
- **画質モードは電源を切ったあとでも記憶されています。**

高画質（SHQ）にする際の諸注意

注意

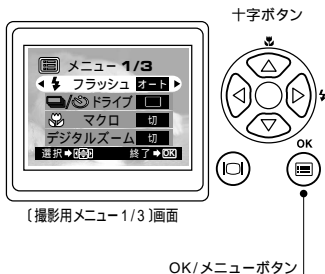
- **高画質になるほど、撮影可能枚数は少なくなります。**
- **高画質になるほど、撮影後の待ち受け時間（オレンジランプの点滅時間）が長くなり、再生時の表示までの時間も長くなります。**
- **カードの撮影可能枚数が少ない時に高画質に変更すると、液晶モニタにカードフル警告マーク(☞ P.99)が表示されることがあります。この時はカードの空き容量がたりません。別の画質モードを選択してください。**

ファインダ横のオレンジランプ点滅中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。

フラッシュを上手に使うには

このカメラのフラッシュは、暗いところや強い逆光の場合には自動的に発光しますが、状況に応じて5つの発光の仕方を選択することができます。

十字ボタン

〔撮影用メニュー1/3〕画面

OK/メニューボタン

操作手順

1. **OK/メニューボタン を押します。**

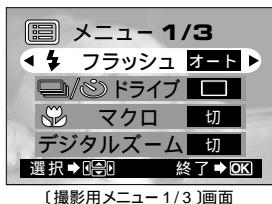
⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「フラッシュ」を選択します。**

〔撮影用メニュー1/3〕画面

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「オート」→「赤目軽減発光 」→「強制発光 」→「夜景 」→「発光禁止 」の順で表示されるフラッシュモードのいずれかを選択します。**

4. **OK/メニューボタン を押します。**

⇒フラッシュモードが設定され、撮影画面に戻り、設定したフラッシュモードで撮影できます。

Note フラッシュモード設定画面は、レンズバリアが開いた状態で十字ボタンの▷（ ）を押すだけでも表示されます。表示中に▷を押すごとにフラッシュのモードが切りかわり、変更できます。何もしないでしばらくたつと、自動的に設定画面が消えます。

それぞれの発光モードの使い方

オート発光

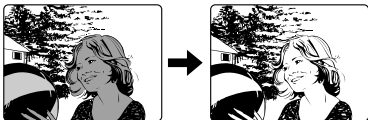
暗い時や逆光の時、フラッシュが自動的に発光します。
逆光の被写体を撮影する時は、被写体をAFターゲットマーク（-¦-）に合わせて撮影してください。

赤目軽減発光

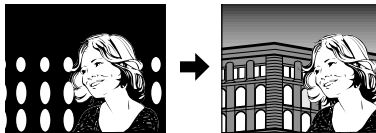
人物を撮影すると目が赤く写ることがあります。赤目軽減発光にして撮影すると、この現象が起こりにくくなります。
本発光の前に10数回予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

注意 **予備発光のため、シャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。**

強制発光

必ず発光させたい時に使います。
強制発光モードでは、フラッシュは常に発光します。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげる時や、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影に使います。

注意 **非常に明るい状況下では、効果があらわれにくくなることがあります。**

夜景 ★☾

夜景をバックに人物を撮影する時に適しています。
撮影のはじめにフラッシュを発光させて人物を明るく写すとともに、シャッター速度を遅くしてフラッシュの光が届かない背景も撮影する方法です。

背景がぶれるのを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。または台の上などにカメラを置いて固定してください。動く被写体はぶれて写ります。

発光禁止

フラッシュを使えない美術館などでの撮影に使います。

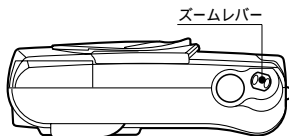
暗い場所では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため、三脚のご使用をおすすめします。または台の上などにカメラを置いて固定してください。動く被写体はぶれて写ります。

Note
●「赤目軽減発光」に設定すると、電源を切っても設定は記憶されます。そのほかの設定にすると、電源を切ると「オート発光」に戻ります。
●フラッシュの光が届く距離は、約0.2m～3.5mです。

注意
●ファインダ横のオレンジランプが点滅している時は、フラッシュは充電中です。撮影できません。いったんシャッターボタンから指をはなし、オレンジランプが消灯してから撮影してください。
●マクロ撮影（☞ P.67）で、フラッシュ撮影すると影が目立ったり適正な明るさにならない場合がありますのでご注意ください。撮影の後、液晶モニタで撮った画像を確認することをおすすめします。
●連写モード（☞ P.69）ではフラッシュはご使用になれません。

大きく撮影するには

光学ズームで3倍までの望遠撮影ができ、デジタルズーム（2倍まで）を合わせて使用すると最大6倍の望遠撮影ができます。デジタルズームを使用するには、撮影メニューで「デジタルズーム」を「入」に設定する必要があります。

光学ズームを使う

操作手順

レンズバリアは開いていますね

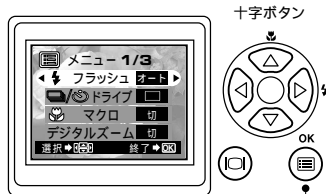
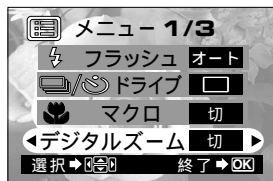
1. **ズームレバーを T 側（テレ）にスライドします。**

⇒画像が最大3倍にズームアップします。

2. **ズームレバーを W 側（ワイド）にスライドします。**

⇒画像がズームダウンします。

Note **光学ズームはデジタルズームと異なり、画質が粗くなることはありません。**

デジタルズームを使う

〔撮影用メニュー1/3〕画面

〔撮影用メニュー1/3〕画面

デジタルズーム
デジタルズームの拡大域に入った場合のみ表示されます（光学ズーム領域では表示されません）。ズームアップの時はT側へバーがスライドし、ズームダウンの時はW側へスライドします。

操作手順

レンズバリアは開いていますね

1. **OK/メニューボタン を押します。**

⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「デジタルズーム」を選択します。**

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「入」を選択し、OK/メニューボタン を押します。**

注意 **ファインダーでデジタルズームを確認することはできません。液晶モニタを見て確認してください。**

4. **T 側にスライドします。**

⇒光学ズームで3倍までズームアップした後、デジタルズームで最大2倍（合計6倍）までズームアップします。

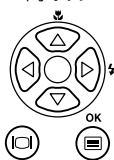
5. **W 側にスライドします。**

⇒デジタルズームで1倍（合計3倍）までズームダウンした後、光学ズームも1倍までズームダウンします。

注意 **画像データの一部を切り取って拡大するデジタルズームを使うと、画質が粗くなります。**

近づいて撮影するには（マクロ撮影）

0.5m以内のものを撮影する時は、マクロ撮影に切り換えてください。

〔撮影用メニュー1/3〕画面

〔撮影用メニュー1/3〕画面

操作手順

レンズバリアは開いていますね

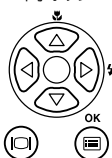
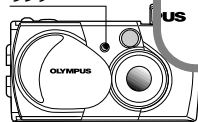
1. **OK/メニューボタン を押します。**
   ⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。
2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「マクロ」を選択します。**
3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「入」を選択します。**
4. **OK/メニューボタン を押します。**
   ⇒液晶モニタがONになり、液晶モニタを見ながらマクロ撮影ができます。
   液晶モニタにマクロ表示 が表示されます。

Note マクロ設定画面は、レンズバリアを開いた状態で十字ボタンの△（）を押すだけでも表示されます。表示中に△（）を押すごとに入／切が切りかわり、変更できます。何もしないでしばらくすると、自動的に設定画面が消えます。

注意
- マクロ撮影モードにした場合は、カメラと写したいものの距離を約0.2m～0.5mに保ってください。ピントと露出が合わずに正しく撮れない場合があります。
- 0.2m以下に近づくとオートフォーカスが合わず、シャッターが切れません。
- マクロ撮影で、フラッシュ撮影すると影が目立ったり適正な明るさにならない場合がありますのでご注意ください。撮影の後、液晶モニタで撮った画像を確認することをおすすめします。
- マクロ撮影モードの時は、ファインダでなく、液晶モニタを見て構図を決めてください。
- マクロモードはカメラの電源を切ると自動的に解除されます。

セルフタイマーを使うには

セルフタイマーを使って撮影ができます。カメラを三脚などにしっかりと固定してから撮影してください。

〔撮影用メニュー1/3〕画面

〔撮影用メニュー1/3〕画面

操作手順

レンズバリアは開いていますね

1. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「ドライブ」を選択します。**

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、セルフタイマーを選択します。**

4. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒セルフタイマーが設定されます。液晶モニタにセルフタイマー表示が表示されます。

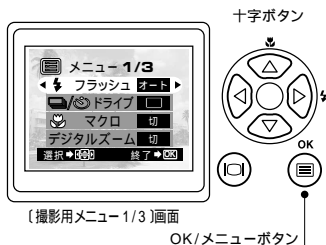
5. **液晶モニタまたはファインダで構図を決めて、シャッターボタンを押します。**
⇒カメラ前面のセルフタイマーランプが10秒間点灯し、2秒間点滅したあと撮影されます。

〈撮影したあとは〉
1枚撮影したあとは、セルフタイマーは自動的に解除されます。

〈中止するには〉
セルフタイマーランプの点灯中に、レンズバリアを閉じて電源をOFFにすると、セルフタイマーが中止(解除)されます。

〈中断するには〉
OK/メニューボタン ▤ を押します。

連続して撮影するには（連写モード）

シャッターボタンを押している間、静止画を連続して撮影できます。連続した画像のなかから、好みの画像を見つけられます。動きの速い被写体の撮影に向いています。連写した中から好みの1コマを見つけたあとは、他の画像を消してしまうこともできます。(**☞ P.52****)**

〔撮影用メニュー1/3〕画面

操作手順

1. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

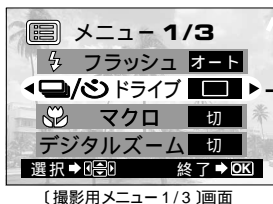
〔撮影用メニュー1/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「ドライブ」を選択します。**

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、 ▭ を選択します。**

4. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**
⇒連写が設定されます。液晶モニタに連写表示 ▭ が表示されます。

5. **シャッターボタンを押し続けます。**
⇒押している間、連続して撮影できます。

6. **レンズバリアを一旦閉じて、再度レンズバリアを開けると、通常の1コマ撮影に戻ります。**

注意
- ●連写撮影中は液晶モニタが消えますが故障ではありません。
- ●連写モードの時は、フラッシュは使用できません。オート発光に設定されていても発光禁止になります。
- ●手ぶれを抑えるため、シャッター速度は最長1/30秒より長く（おそく）なりません。暗い被写体は通常より暗く写る場合があります。
- ●連続撮影後は、画像の記録（ファインダ横オレンジランプ点滅）にしばらく時間がかかります。
- ●連写可能な枚数（最大4枚）は、被写体や画質、カードの撮影可能枚数によって変わります。

警告

ファインダ横のオレンジランプの点滅中にカードカバーを開けたり、ACアダプタ、電池、カードを抜くと、カード内のデータが破壊される恐れがあります。

画像の明るさを変えるには（露出補正）

露出は自動で決まりますが、撮りたいものによって、0.5段刻みで±2段まで明るく、または暗くできます。(+2で4倍明るく、−2で4倍暗く撮影できます)

●写したいものと背景のコントラスト(明暗の差)が非常に大きい場合などに使用すると、適正な明るさ(露出)が得られます。
●白いものを白く写したい時には[＋]の、黒いものを黒く写したい時には[−]の補正をすると効果的です。

〔撮影用メニュー1/3〕画面

操作手順

レンズバリアは開いていますね

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔撮影用メニュー2/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、撮影用の「メニュー2/3」を表示させ、「露出補正」を選択します。**

3. **▷ で＋（明るく）、または ◁ で−（暗く）の補正値を選びます。**

〔撮影用メニュー2/3〕画面

4. **OK/メニューボタン を押します。**

⇒撮影モードに戻り、液晶モニタに露出補正値が表示されます。

露出補正値

5. **シャッターボタンを押します。**

⇒露出補正したまま、連続して撮影できます。

6. **レンズバリアを閉じて、電源を切ります。**

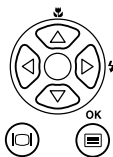
⇒±0（補正なし）に戻ります。液晶モニタの露出補正表示が消えます。

露出補正すると、液晶モニタに表示される画像の明るさも設定に沿って変わります。ただ、写すものが暗い時は変化がわかりにくいため、その時は撮影した画像を再生してご確認ください。

注意
- **フラッシュを使用すると狙いどおりの明るさ(露出)で撮影できないことがあります。**
- **写すものの周囲が極端に明るい時や、極端に暗い時は、露出補正では補正しきれません。**

画像の色あいを変えるには（ホワイトバランス）

このカメラは、自然な色合いで写るよう自動的に調節する機構(オートホワイトバランス)を採用しています。天候や照明によって思い通りの色に仕上がらない時は、ホワイトバランスを設定してください。

自然な色に仕上がりにくいのは、人工的な照明と自然光が混じっている時や蛍光灯照明の時です。

〔撮影用メニュー1/3〕画面

十字ボタン

OK

OK/メニューボタン

操作手順

レンズバリアは開いていますね

1. **OK/メニューボタン ▤ を押します。**

⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔撮影用メニュー2/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、撮影用の「メニュー2/3」を表示させ、「ホワイトバランス」を選択します。**

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、次ページのホワイトバランスのいずれかを選択します。**

ホワイトバランス設定

→「オート」	：お買上の際の設定で、**表示はありません。** 自然な色に写るよう自動的に調節します。
→ ☼「晴 天」	：晴れた屋外で自然な色に写ります。
→ ☁「曇 天」	：曇った屋外や晴れた日陰で自然な色に写ります。
→ ☀「電 球」	：電球の灯で自然な色に写ります。
→ 「蛍光灯」	：蛍光灯の灯で自然な色に写ります。

ホワイトバランス表示（晴天）

4. OK/メニューボタン を押します。

⇒撮影モードに戻り､液晶モニタにホワイトバランスが表示されます。

5. シャッターボタンを押します。

⇒設定したホワイトバランスのまま、連続して撮影できます。

6. レンズバリアを閉じて、電源を切ります。

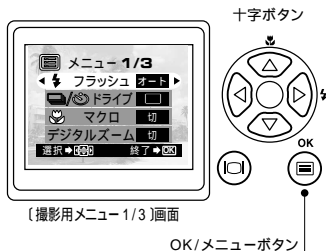
⇒オートホワイトバランスに戻ります。

電球の下で見た感じに近いイメージで撮りたい時などは､「晴天」に設定します。電球の色合いが表現できます。

注意

- **特殊な光源下では、ホワイトバランスが思ったとおりに機能しない場合があります。**
- **選んだ設定値が最適かどうかは、撮影後にテレビ画面やパソコンで確認してください。**
- **オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュが発光した場合、モニタで見た色と異なった色で撮影される場合があります。**

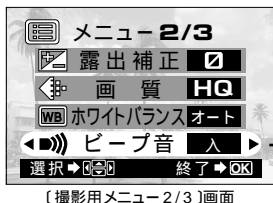
ピピッという音を消すには（ビープ音）

結婚式や舞台、動物の写真などでは、ピピッという音が邪魔になることがあります。そんな時に音を消すことができます。

〔撮影用メニュー1/3〕画面

操作手順

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに撮影用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔撮影用メニュー2/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、撮影用の「メニュー2/3」を表示させ、「ビープ音」を選択します。**

3. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「切」を選択します。**

4. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒撮影モードに戻ります。

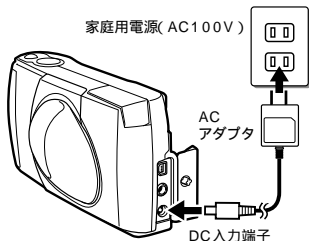
5. **すぐに撮影を始められます。**
⇒音を消したまま、連続して撮影できます。

Note
●電源を切っても消音状態が記憶されます。
●再生用の「メニュー」からも、ビープ音の「入」「切」が選べます。

撮影した画像を楽しみましょう

デジタルカメラで撮影した画像は、いろいろな楽しみ方ができます。この章では、プリントすることから、画像をパソコンに転送することまで、さまざまな方法をご紹介します。
なお、カメラをテレビやパソコン、プリンタに接続する場合は、専用ACアダプタのご使用をおすすめします。

電源はACアダプタ(別売)のご使用をおすすめします

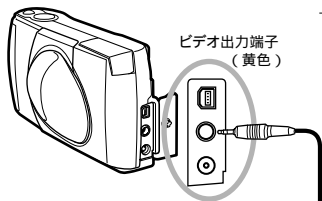
オリンパス専用ACアダプタE-7AC(別売／3V用)を接続すると、ご家庭のコンセント（AC100V）を利用できます。C-7ACは6V用ですのでご使用になれません。

注意
- **●カメラの電源が入っている時にACアダプタのプラグを抜かないようにしてください。カメラに設定されている設定値にトラブルが生じる場合があります。**
- **●カメラをテレビ、パソコン等に長時間接続する場合、電池を用いると途中で消耗して、画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。**

警告 火災・感電・やけどの恐れがあります。

●電源は必ずAC100Vをご使用ください。
●専用ACアダプタは日本国内でのみ使用可能です。海外では使用しないでください。
●ACアダプタの差し込みが不完全な状態では使用しないでください。
●濡れた手でACアダプタを絶対に抜き差ししないでください。
●万一ACアダプタやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出るなどの異常が発生した場合、直ちに使用を中止してください。さらに、当社サービスステーションにご相談ください。
●専用のACアダプタ(EIAJ規格・極性統一型プラグ付)以外は絶対に使用しないでください。カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故が起きる可能性があります。専用以外のACアダプタの使用により生じた障害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
●ACアダプタをコンセントから抜く時は、必ずACアダプタの本体を持って抜いてください。
●ACアダプタのコードを無理に引っ張ったり、折り曲げたり、ねじったり、継ぎ足したりすることは絶対にやめてください。
●ACアダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があったりした場合は、当社サービスステーションにご相談ください。
●ACアダプタを接続したり外したりする時は、カメラに電池が入っているか否かに関わらず、必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。
●使用しない時は、必ずコンセントからACアダプタを取り外してください。
●充電池などへの充電機能はありません。専用充電器を使用してください。

撮影した画像をテレビで見ましょう

液晶モニタボタン

Note ●テレビに接続すると、カメラの液晶モニタは消えます。
●テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、故障ではありません。
●スライドショーも楽しめます。（☞ P.54）

Note **同梱のビデオケーブルでテレビに接続すると、大きな画面で画像を楽しめます。**

操作手順

テレビとカメラの電源が切れていて、カメラのレンズバリアが閉じていますか

1. **ビデオケーブルを、カメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子に差し込みます。**

2. **テレビの電源を入れて、「ビデオ入力」に設定します。**
ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をお読みください。

3. **カメラの液晶モニタボタン をしばらく押します。**
⇒再生モードで電源が入り、撮影された最も新しい画像(最後に撮影した画像)がテレビに表示されます。

4. **十字ボタンで画像を選択します。**（☞ P.50）

注意 ●ご使用のテレビによっては、画像の外側に黒枠が表示されることがあります。このような状態でテレビからビデオプリンタ（市販）に出力すると黒枠が目立つことがあります。
●テレビとの接続には必ず付属のビデオケーブルをご使用ください。

写真店やプリンタでプリントできます

パソコンのプリンタを使わないで、
カードから直接プリントする方法です。

写真店や、DPOF対応プリンタでプリントする

DPOF対応のプリントサービスをする写真店にカードを持ち込むか、DPOF対応のプリンタを使うと、撮影した画像をプリントできます。

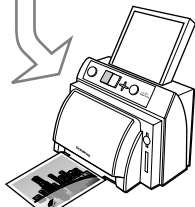
DPOFについて

DPOFとはデジタルカメラの自動プリント情報を記録するフォーマット（Digital Print Order Format）のことです。画像を保存したカードにプリントしたい画像を指定しておくと、DPOF対応のプリントサービスや家庭用のDPOF対応プリンタで簡単にプリントできます。

Note あらかじめカードにプリントする画像を予約（☞ P.82）しておくと、DPOF対応のプリンタに取り付けたり、DPOF対応のラボに持ち込んだ時、プリントする画像をその場で指定する必要がありません。

DPOFを使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイルNoで指定してください。コマNoで指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイルNoは撮影した画像を再生したさいに、しばらく表示されます。
（☞ P.48）

注意
- 他のDPOF機器で設定した予約は、このカメラで変更できません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約したカードに、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、他の機器で行った予約が解除されることがあります。
- 専用プリンタP-400やP-200などUSB端子を装備するプリンタにカメラと直接USBケーブルをつないでプリントすることはできません。
- プリンタまたは写真店により、一部機能が制限されることがあります。
- スマートメディア以外での持ち込み方法については、あらかじめ写真店にご相談ください。

P-400/P-200/P-330N

専用プリンタでプリントする

Note 専用プリンタP-400/P-200/P-330N（別売）はDPOF対応プリンタです。プリント予約（☞ P.82）したカードを専用プリンタに差し込むと、簡単な操作で画像をプリントできます。詳しくは、専用プリンタの取扱説明書をお読みください。

P-400/P-200/P-330Nの主な機能

- １コマプリント
- マルチプリント（4、9分割プリント）
- 予約プリント
- トリミングプリント（1.5、2倍）（一部拡大）
- 日付プリント
- 転写プリント※（左右反転）

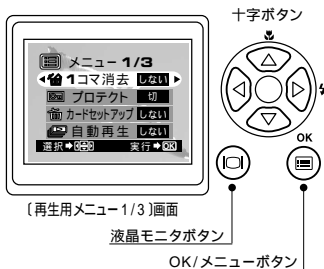
※P-330Nで可能です。

注意
- **カメラのUSB端子に直接プリンタを接続してプリントすることはできません。**
- **カメラのビデオ出力端子に専用プリンタP-330Nを接続してプリントした場合、プリンタの性能を充分に発揮できません。**

カードにプリント予約をします

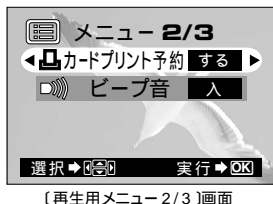
1コマプリント／全コマプリント

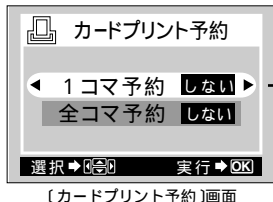
カード内に保存されている画像ごとに印刷希望枚数を予約し、DPOF対応プリンタや写真店で希望の画像を希望枚数だけプリントできます。

〔再生用メニュー1/3〕画面

液晶モニタボタン をしばらく押して、再生モードにしていますね

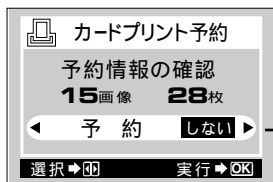
操作手順

1. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒液晶モニタに再生用の「メニュー1/3」が表示されます。

〔再生用メニュー2/3〕画面

2. **十字ボタンの △ ▽ を押して、再生用の「メニュー2/3」を表示させ、「カードプリント予約」を選択すると「する」に表示が変わります。**

3. **OK/メニューボタン を押します。**
⇒「カードプリント予約」画面が表示されます。

〔カードプリント予約〕画面

4. **十字ボタンの △ ▽ を押して、「1コマ予約」または「全コマ予約」を選択します。**
十字ボタンの ◁ ▷ を押して「する」を選択し、OK/メニューボタン を押します。
⇒「全コマ予約」を選択した場合は8.の予約確認画面に進みます。
⇒「1コマ予約」を選択した場合は次のコマ選択と枚数指定に進みます。

Note ●1コマ予約／プリントしたいコマを選択して予約します。
●全コマ予約／カード内のすべての画像を一枚ずつ予約します。
その前に予約されている予約情報は消去されます。

〔カードプリント予約確認〕画面

5. **「1コマ予約」の場合は、十字ボタンの ◁ ▷ を押して予約するコマを選びます。**

6. **十字ボタンの △ ▽ を押して、プリントしたい枚数を設定します。**
⇒ひとつの画像で最大10枚まで予約できます。

7. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して次に予約するコマを選び、同じように枚数を設定します。**

8. **予約が終わったら、OK/メニューボタン を押します。**
⇒予約確認画面が表示されます。(予約画像数・予約枚数)

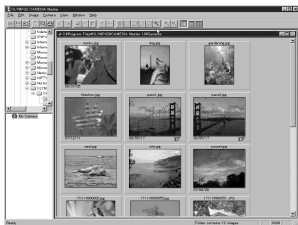
9. **十字ボタンの ◁ ▷ を押して、「する」を選択し、OK/メニューボタン を押します。**
⇒予約が設定され、「メニュー2/3」画面に戻ります。

Note **カードに予約した情報は、電源を切っても記憶されます。**

注意 **解除するを選択すると、その前に予約されているすべての予約情報が消去されます。**

●このカメラで設定された予約情報がある場合には、3.の操作で「予約情報が有ります」と表示され、コマNo.とプリント予約枚数が表示されます。
●予約を解除するには、「解除する」を選び、OK/メニューボタン を押します。

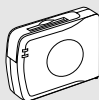
パソコンでできること

デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込むと、市販のアプリケーションソフトなどを使って、次のようなさまざまな方法で画像を楽しめます。

CAMEDIA MASTERを使った編集

- **パソコンのハードディスクに画像データを保管しておけます。**
- **パソコンのモニタで撮影した画像を見ることができます。**
- **文書などに、デジタルカメラで撮影した画像を入れることができます。**
- **撮影した画像を、Eメールに添付して送ることができます。**
- **撮影した画像に文字を入れることができ、カレンダーやポストカードなどをつくれます。**
- **撮影した画像や画像入り文書などをMO、CD-Rなどにコピーして、他の人に送れます。**
- **画像の色や明るさを調節するなど、さまざまに加工できます。**

注意 パソコンでできることは、パソコンの動作環境や使用するソフトによって異なります。詳しくはご使用のパソコンやソフトの取扱説明書でお確かめください。

パソコンに取り込む方法を見つけます

このカメラで撮影した画像をパソコンに取り込むために、お持ちのパソコンに最適な方法を見つけます。

●専用USBケーブルを使って接続する方法

このカメラで撮影した画像をパソコンに取り込みます。USBインターフェイスを装備していないパソコンをお使いの方は85ページで最適な方法をお選びください。

注意 **この方法で読み込むには、以下の準備が必要です。ご使用のパソコンの環境によって、使用できる方法が異なりますのでご注意ください。**

パソコンの環境	接続に必要なもの	
	接続ケーブル	ソフトウェア
●Windows 2000 Professional／Me ●Mac OS 9.0～9.1 ※1	専用USBケーブル (CB-USB1／同梱)	とくに必要ありません
●Windows 98／98 Second Edition	専用USBケーブル (CB-USB1／同梱)	USBドライバ ※2

※1：Mac OS 8.6の場合は、USB MASS Storage Support 1.3.5で動作しているMacintoshのみ動作が確認されています。
※2：USBドライバは、同梱のCD-ROMに含まれています。
USBドライバは、オリンパスのホームページから最新版をダウンロードできます。

注意
- **●パソコンと接続すると、カメラのボタン類は一切動作しなくなります。**
- **●USB端子を装備しているパソコンでも、次の環境では動作保証ができませんのでご注意ください。**
  - **○Windows 95からWindows 98へアップグレードしたパソコン**
  - **○Windows 95**
  - **○Windows NT 4.0**
- **●Mac OSならびにUSB MASS Storage Supportへのアップグレードバージョンでは、動作保証ができませんのでご注意ください。**
- **●拡張カードでUSB端子を増設した機種では、動作保証ができませんのでご注意ください。**
- **●自作パソコンは動作保証外です。**
- **●ハブとパソコンの相性によって、カメラをハブ経由で接続すると動作が不安定になることがあります。この場合は、パソコン本体のUSBポートに直接接続してください。**

電池を入れたままACアダプタを使う際のご注意

パソコンにカメラを接続する前に、ACアダプタ(E-7AC：別売)を取り付け、カメラから電池を取り外すことをお勧めします(ACアダプタを取り付けない場合は、電池を入れてください)。

注意
- 電池を使用している場合、パソコンからカメラ内のカードにアクセスしている時に電池の残量がなくなると、カメラが途中で動作を中止して、ファイル(データ)が壊れることがあります。
- 電池を入れたままパソコンに接続しているとき、ACアダプタを抜き挿しすると、カード内の画像データが破壊されたり、お使いのパソコンが誤動作することがあります。

●電池を入れたまま、ACアダプタも使う必要がある場合は、必ず次の順序で操作してください。

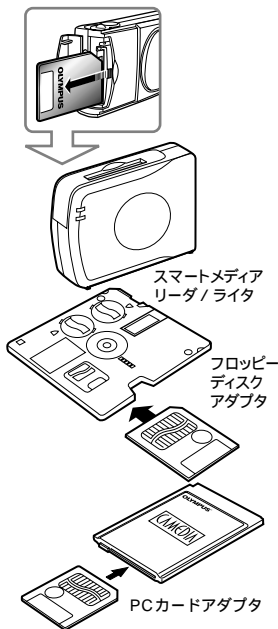
ACアダプタの取り付け

1.USBケーブルがカメラに接続されていないことを確認します。
2.ACアダプタをカメラに接続します。
3.カメラとパソコンをUSBケーブルで接続します。

ACアダプタの取り外し

1.カメラとパソコンからUSBケーブルを取り外します。
2.ACアダプタをカメラから取り外します。

●カードから直接読み込む方法

カード用のアダプタを使うと、カメラをパソコンと接続しなくても、画像をパソコンに読み込むことができます。（別途画像を開くアプリケーションが必要です。）それぞれの機器の最新の情報については、当社カスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

●スマートメディア・リーダ／ライタを使って読み込む方法

ＵＳＢ対応パソコンでは、スマートメディア・リーダ／ライタ（別売）を使って、カードから直接画像を読み込めます。ご使用の前に、ご使用のパソコンがWindows ９８／Me／２０００またはMAC OS ８.６～９.０.４のＵＳＢ対応パソコンであることをお確かめください。詳しくは、スマートメディア・リーダ／ライタの取扱説明書をお読みください。

●フロッピーディスクアダプタを使って読み込む方法

別売のフロッピーディスクドライブアダプタをご用意ください。
(アダプタにカードを装填し、フロッピーディスクドライブに差し込めば、カードから直接画像を取り込めます。詳しくは、フロッピーディスクアダプタの取扱説明書をお読みください。)

●ＰＣカードアダプタを使って読み込む方法

別売のPCカードアダプタをご用意ください。
(アダプタにカードを装填し、PCカードスロットに差し込めば、カードから直接画像を取り込めます。詳しくは、ＰＣカードアダプタの取扱説明書をお読みください。)

別売品の最新情報については、オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp）をご覧ください。

注意

- **パソコンの動作環境やカードの記憶容量などにより、ご使用になれない場合があります。ご使用前にお確かめください。**
- **ライトプロテクト（書き込み禁止）シールの貼ってあるカードをパソコンで使用すると、エラーが多発します。ご使用にならないでください。詳しくは、各アダプタの取扱説明書をお読みください。**
- **パソコンなどを使って画像ファイルのファイル名を変更したり、独自のフォルダ（ディレクトリ）に移したりすると、カメラの液晶モニタで再生できないことがあります。**
- **パソコンで、弊社製CAMEDIA Master以外のアプリケーションを使用して保存し直した画像ファイルは、カメラの液晶モニタで再生できないことがあります。**

パソコンに画像を取り込みます

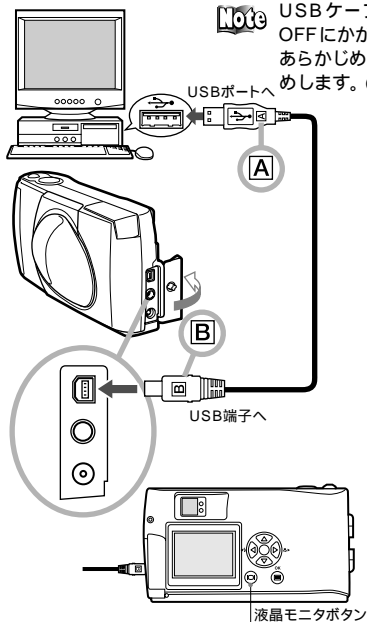
Note **USBケーブルは、パソコンやカメラの電源がON、OFFにかかわらず差し込めます。あらかじめACアダプタをご使用になることをおすすめします。（** **☞ P.78****）**

USBポートへ

A

B

USB端子へ

液晶モニタボタン

操作手順

1. **パソコンのUSBポートに、USBケーブルの A と刻印されているプラグを差し込みます。**

USBポートの位置はパソコンによって異なります。

2. **カメラのコネクタカバーを開きます。**

3. **カメラのUSB端子に、専用USBケーブルの B と刻印されているプラグを差し込みます。**

⇒パソコンとカメラが通信を始めるとファインダ横の緑ランプが点灯します。

これで接続ができました。

初めて接続する時にはドライバソフトのインストール作業を行います。

Windowsの場合

☞ P.91へ

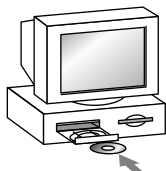
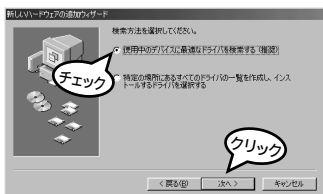
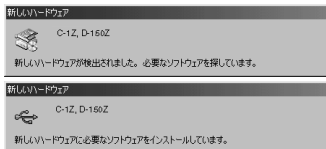
Mac OS 9※の場合

☞ P.94へ

※MAC OS 8.6のインストール方法は裏表紙のアクセスポイントにお電話ください。

注意 **ACアダプタをご使用する際は、P.87の「電池を入れたままACアダプタを使う際のご注意」をお読みください。**

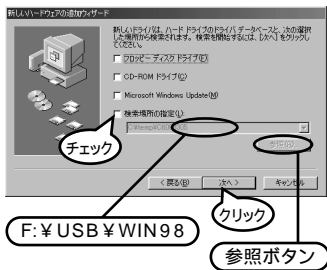
Windowsの場合

パソコンとの接続はできましたね

4. **パソコンの画面に左図のようなウィンドウが一旦表示されます。（すでにドライバソフトがインストール済みの場合は表示されません。）**

5. **左図の画面で、「次へ」をクリックします。この画面が表示されない場合には93ページの「*12.*」に進んでください。**

6. **左図の画面で「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択して、「次へ」をクリックします。**

7. **付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れます。**

8. **自動的に左図のウィンドウが表示された場合は、「終了」をクリックして閉じてください。**

9. **左図の画面で「検索場所の指定」を選択して、CD-ROM内の「Win98」フォルダを指定し、「次へ」をクリックします。**

CD-ROMドライブ名が分らない時は「参照」ボタンから選べます。

注意 **左図はCD-ROMがFドライブの場合です。ご使用のパソコンのCD-ROMドライブに合わせて、「F」の文字を変更してください。**

10. **左図の画面で、「次へ」をクリックします。**

11. **左図の画面で、「完了」をクリックします。**

Note **初めてカメラとパソコンを接続した時にこの作業が必要です。以後カメラとパソコンを接続した場合には必要ありません。93ページの「*12.*」に進んで下さい。**

12. **パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」を開きます。**

13. **「リムーバブルディスク(E:)」を開きます。**

注意 **左図はリムーバブルディスクがEドライブへ接続されている機器(MOディスクドライブ、USBカードリーダライタ)などの場合です。ご使用のパソコンによって、ドライブの文字が異なりますのでご注意下さい。**

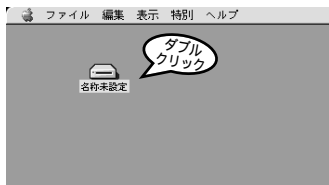
14. **「Dcim」フォルダを開きます。**

15. **「100 olymp」フォルダを開きます。**

16. **画像(JPEGファイル)が表示されます。**

注意 **表示されているだけで保存はされていません。保存方法はパソコンの取扱説明書をご覧ください。**

※カードを取り出す場合は95ページをご覧ください。

Mac OS 9の場合

4. **パソコン画面のデスクトップ上に、「名称未設定」のアイコンが表示されます。**

5. **「名称未設定」を開きます。**

6. **「DCIM」フォルダを開きます。**

7. **「100 OLYMP」フォルダを開きます。**

8. **画像(JPEGファイル)が表示されます。**

注意 表示されているだけで保存はされていません。保存方法はパソコンの取扱説明書をご覧ください。

※カードを取り出す場合は95ページをご覧ください。

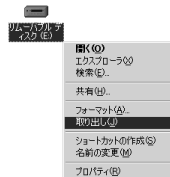
Note

- **パソコンに読み込んだ画像は、OLYMPUS CAMEDIA Masterや、蔵衛門、Paint Shop Pro、Photoshopなどのグラフィックソフトや、インターネット閲覧ソフト(Netscape Communicator、Microsoft Internet Explorerなど)で閲覧できます。詳しくは対応ソフトのマニュアルを参照してください。**
- **最新の別売機器については、当社ホームページまたは最新のカタログをご覧ください。**
- **OS付属または市販のソフトによっては画像の回転などを行うだけでその情報を画像ファイルに書き込むものもあります。そのような場合、カメラのカード内の画像ファイルを直接操作しているとファイルを壊すことがあります。必ずパソコンにダウンロードしてから操作してください。**

カードを取り外す際のご注意

注意 **カードを取り出すときには、必ず次の手順で操作してください。この操作を行わないでカードを取り出し、別のカードに入れ替えたりすると、パソコンが誤動作したり、カード内のデータを破壊する場合があります(特にMac OSをお使いの方はご注意ください)。誤動作から回復するには、USBケーブルを接続しなおすかパソコンを再起動する必要があります。**

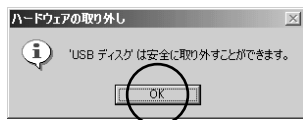
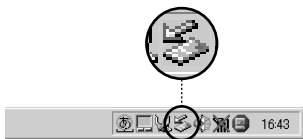
●Windows 98、Windows 2000の場合

「マイコンピュータ」のドライブアイコン(リムーバブルディスク)を右クリックして「取り出し」を選択し、カメラのファインダ横のオレンジランプが消えていることを確認してから、カードカバーを開けて取り出してください。

●Mac OSの場合

デスクトップのドライブアイコンを「ゴミ箱」に捨てるか、「特別」メニューから「取り出し」を選択し、カメラのファインダ横のオレンジランプが消えていることを確認してから、カードカバーを開けて取り出してください。

USBケーブルを取り外す際のご注意

注意 **USBケーブルを取り外すときには、必ず次の手順で操作してください。**

●Windows 2000、Windows Meの場合

1. **カメラのファインダ横のオレンジランプが消えていることを確認します。**

2. **タスクバー(パソコンの画面右下)に表示されている「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」のアイコンをクリックします。**

3. **ドライブを停止するというメッセージをクリックします。**

4. **安全に取り外しできるというメッセージが表示されたら、[OK]ボタンをクリックします。**

5. **パソコンとカメラからUSBケーブルを取り外します。**

タスクバーの「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをダブルクリックした場合は、ハードウェアの取り外し画面が表示されます。ハードウェアデバイスの一覧からカメラを選択し、[停止]ボタンをクリックしてください。

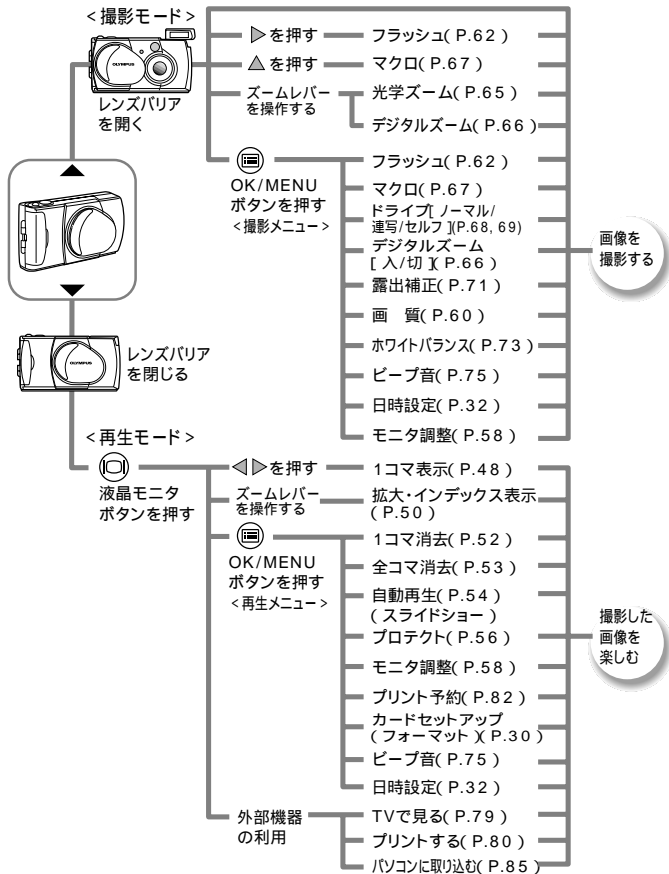
Note **Windows 98、Mac OSの場合は、「カードを取り外す際のご注意」の操作でUSBケーブルを取り外せます。**

困ったなと思ったら

ここがよくわからない、うまく撮影できない時、故障かなと思った時、以下のページを参照してください。オリンパスサービスステーションに修理に出す前に、解決できることもあります。

●やさしい操作のチャート
●こんな表示が出たら
●うまく操作できない
●画像の仕上がりがよくない
●こんな疑問にお答えします Q＆A
●アフターサービスについて
●別売品のご案内
●お問い合わせ窓口

やさしい操作のチャート

主な操作は図のような流れになっています。
詳しい操作の説明は各参照ページをご覧ください。

こんな表示が出たら

警告　液晶モニタ表示	エラー内容	対　　応
カードなし警告 カードを認識できません	カードが入っていません。または認識しません。	カードを入れてください。または、正しい向きにカードを入れ直してみてください。
カードフル警告 撮影可能枚数が0です	撮影可能枚数が0のため撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消去してください。
ライトプロテクト警告 書き込み禁止になっています	カードが書き込み禁止になっています。	撮影をする場合はプロテクトシールをはがしてください。（同梱のスマートメディア取扱説明書をお読みください。）
カードエラー警告 このカードは使用できません	撮影・再生・消去することができません。	クリーニングペーパーでカードの端子を拭き、もう一度フォーマット(初期化)してください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
再生エラー警告 画像を認識できません	再生できません。	他社のカメラで撮影したカードやパソコンで記録したデータなどは再生できない場合があります。
画像なし表示 画像が記録されていません	再生できません。	画像が記録されていないカードを再生しようとしています。
カードカバー警告 カードフタが開いています	カメラが正しく作動しません。	カチッという音がするまで、カードカバーを閉じてください。

うまく操作できない

カメラが動かない

原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	レンズバリアをあけて、電源を入れてください。	P.36
電池の向きが正しくない	電池を正しく入れ直してください。	P.25
電池残量がない	新しい電池を入れてください。	P.25
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットなどで温めてから使用してください。	P.25
自動的に電源が切れた	レンズバリアをいったん閉めて、再び開けてください。	P.36
パソコンに接続している	パソコンに接続中は、カメラは動作しません。	–
カメラ内が結露した	電源を入れないでしばらくカメラを自然乾燥させてから、電源を入れてください。	–

フラッシュが発光しない

原因	こうしましょう	参照ページ
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は強制発光モードにしてください。	P.62
連写モードになっている	連写モードでは、フラッシュはご使用になれません。	–

液晶モニタが見にくい

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの明るさの設定が適切ではない	液晶モニタの明るさを調節してください。	P.58
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	–

シャッターボタンを押しても撮影ができない

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの充電が完了していない。または、撮影後の処理中である	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.43
カードに問題がある	エラーメッセージをご参照ください。	P.99
カードの容量がいっぱいになった	カードを交換するか、不要なコマを消去するか、画像をパソコンなどに転送して全コマ消去を行ってください。	P.52 P.53 P.90
撮影中やカードの書き込み中に電池がなくなった	電池を新品と交換してください。	P.25
電池残量が少なくなった	電池を交換してください。（オレンジランプが点滅してカード記録中の場合、完了するまでお待ちください。）	P.25
カードにライトプロテクトシールが貼られている、またはカメラにカードが入っていない	新しいカードを入れてください。	P.28 P.30
再生モードになっている	レンズバリアを開けてください。	P.36
撮影した画像をカードに記録中である。 (オレンジランプが点滅している)	シャッターボタンから指を離し、しばらく待ってオレンジランプが消灯してから撮影してください。	P.43
撮影しようとしているものが近すぎる	マクロ撮影モードに設定してから､再度シャッターボタンを押してください。 ただし、撮影距離が0.2m以内の場合はシャッターが切れません。	P.67
せり出したレンズを押したなどで、カメラに何らかの異常が発生した	いったんレンズバリアを閉じてから再度開いてください。	ー

液晶モニタ上で再生ができない

原因	こうしましょう	参照ページ
撮影モードになっている	レンズバリアを閉じて、液晶モニタボタンを押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.48
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	P.48 P.99
テレビに接続している	テレビに接続中は、液晶モニタは消灯します。	P.79
カードに問題がある	エラーメッセージをご参照ください。	P.99

画像のプロテクト、1コマ消去、全コマ消去、初期化ができない

原因	こうしましょう	参照ページ
カードにライトプロテクトシールが貼られている	シールを剥がしてからご使用ください。シールは再使用しないでください。	P.31

パソコンとつないだ時、データ転送中にエラーメッセージが出る

原因	こうしましょう	参照ページ
ケーブルが正しく接続されていない	正しく接続されていることを確認してください。	P.90
カメラの電源が切れている	液晶モニタボタンを押して電源を入れてください。	P.36
電池が消耗している	パソコンと接続する場合は、ACアダプタ(別売)をお使いください。	P.78
USBドライバが正しくインストールされていない	USBドライバのインストールマニュアルに従って、カメラがパソコンに認識されているかを確認してください。	—

画像の仕上がりがよくない

撮影した画像が明るすぎる

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュモードが「強制発光」になっていた	一度レンズバリアを閉じるなどしてオート発光または発光禁止にしてください。	P.62
明るすぎる被写体に向かって撮影した	露出補正をするか（[ー]方向に補正)、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.71

撮影した画像が暗い

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指などで覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.34
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲よりも遠くにあった	近づいて約3.5m以内で撮影してください。	P.62
逆光状態で暗い被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」にセットして撮影してください。	P.63

室内で撮った画像の色がおかしい

原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	フラッシュを「強制発光」にセットして撮影してください。	P.63
被写体に白い部分がなかった	画面に白い被写体を入れて撮影するか、照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.73
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.73

画像の一部が欠けてしまった

原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップをかけないように気をつけてください。	P.34
撮影距離が近かった	液晶モニタで構図を確認して撮影してください。	P.40

ピントの合っていない画像ができた

原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押す時にカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押してください。	P.34
ピントを合わせたいものが、AFターゲットマークからはずれてしまった	ピントを合わせたいものを画面中央に持ってくるか、フォーカスロック撮影を行ってください。	P.46
レンズが汚れていた	レンズブロワー(市販)でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭いてください。	ー
マクロモードを正しく使っていなかった	0.2m～0.5mの範囲に被写体がある場合はマクロモードを使い、それより遠い場合は通常モードを使ってください。	P.67
セルフタイマー撮影で、カメラの直前に立ってシャッターボタンを押した	カメラの前に立たず、ファインダをのぞきながらシャッターボタンを押してください。	P.68
フラッシュの必要な暗い状況で、フラッシュを「発光禁止」に設定していた	シャッタースピードが遅くなり、露出時間が長くなりますので、三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えてください。	P.64

こんな疑問にお答えします Q&A

Q 電池を長持ちさせるには？

A 液晶モニタの使用時間、フラッシュの使用頻度、電池の種類および銘柄、使用環境温度などによって大きく変わります。とくに液晶モニタを点灯させたままにすると電池の消耗が激しいので、こまめに電源を切るようにしてください。
別売の専用ACアダプタを使用しますと電池寿命を心配しなくてすみます。

Q 画像データに記録される日付が正しくないのですが？

A お買上の際は日付設定されておりませんので、撮影前に日付設定をしてください（☞ P.32）。なお、カメラから電池を抜いて約1時間放置すると、設定は解除されます。

Q フィルターやフードは取り付けられますか？

A 取り付けられません。

Q 外付けフラッシュは使用できますか？

A 使用できません。

Q フラッシュを使用して人物撮影をしたら、目が赤く写ってしまったのですが?

A どのカメラでも、フラッシュを用いた人物撮影では目が赤く写ることがあります。これは、網膜がフラッシュの光を反射するために起こる現象です。個人差が大きく、また周囲の明暗などの撮影条件によっても異なります。一般的には東洋人は出にくく、西洋人は出やすい傾向にあります。赤目軽減発光モードを使用することにより、発生頻度を大幅に軽減できます（☞ P.63）。

Q カメラはどのように保管すればよいのですか?

A カメラはホコリ、湿気、塩分を嫌います。よくふいて自然乾燥させて、保管してください。海辺で使ったあとは、真水で浸した布を硬く絞ってふき取ると良いでしょう。防虫剤の使用は避けてください。また、長期保管の場合は電池を抜いてください。＊
（＊約１時間でカレンダーの日時設定がリセットされます。）

Q パソコンとの接続は、どんなパソコンでもできるのですか?

A ＵＳＢポートを備えた最近のパソコンなら、ほとんどの機種に接続できます。Windows機（PC/AT互換機）にもMacintosh機にも、ノートパソコンにも接続できます。ただしＯＳによってはＵＳＢのサポートに違いがあります。詳しくはＰ.８６をご参照ください。

Q USBとは何ですか?

A Universal Serial Busの略で、専用ソフトがなくてもパソコンに画像が取り込める新しい接続方法です。コードを接続する際に、カメラやパソコンの電源を切る必要がなく便利です。パソコンの背面か側面または前面に約６mm×約１５mmほどの差込口があり、 マークがついていれば、それがＵＳＢポートです。

Q パソコンで画像を加工したり、文書に取り込むには、どんなソフトが必要なのでしょうか?

A Windows機なら、Microsoft OfficeのWindows Photo Editorなどで加工できます。さらに高度な処理をするには、Adobe Photoshopなどの画像処理（フォトレタッチ）ソフトをご使用ください。
Microsoft Wordなどのワープロソフトでは、直接文書に画像を貼り付けることができます。ご使用方法は、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をお読みください。

アフターサービスについて

●保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」などの記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また、保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

●本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または裏表紙のオリンパスサービスステーションにご相談ください。使用説明書などに従ってお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満１年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

●保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

●当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後５年間を目安に当社で保有しています。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店または、お近くのオリンパスサービスステーションにお問い合わせください。

●本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。海外では修理できません。万一、海外で故障や不具合が生じた時は、お持ち帰り後に日本国内のサービスステーションまでご依頼ください。

●本製品の故障に起因する付随的損害(撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失など)については補償しかねます。また、保証期間の内外を問わず、修理時の運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

別売品のご案内

2001年4月現在

●パソコン接続キット（C-9KU）
- ■ CAMEDIA Master 2.5
（Macintosh、Windows 98/2000 Professional/Me用）
- ■ パソコン接続用USBケーブル（DOS/V、Macintosh、PC-98共用）

●CAMEDIA Master 2.5（C-90PJ2）

●スマートメディア（8MB/16MB/32MB/64MB/128MB）

●プリンタ（P-400/P-200/P-330N）

●ACアダプタ（E-7AC）

●リチウム電池パック（LB-01）

●ニッケル水素充電池（B-03NH16）

●充電器・ニッケル水素充電池４本セット（BU-40SNH）

●PCカードアダプタ（MA-2）

●フロッピーディスクアダプタFlashPath（MAFP-2N）
- ■ DOS/V: Windows 95/98/NT 4.0/2000 Professional/Me
- ■ PC-9821: Windows 95（OSR2以降）/98
- ■ Power Macintosh: Mac OS 7.5.1～9.1（Read only）

●スマートメディア・リーダ／ライタ
- ■ 64MBスマートメディアまで対応
- ■ Windows 98/2000 Professional/Me、Mac OS 8.6～9.0.4用

別売品の最新情報については、オリンパスホームページ(http://www.olympus.co.jp)をご覧ください。

お問い合わせ窓口

商品に関する技術的なお問い合わせ窓口

オリンパス光学工業株式会社 カスタマーサポートセンター

〒192-8507　東京都八王子市石川町2951

TEL　0426-42-7499

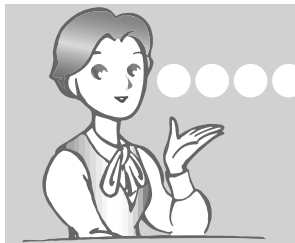
FAX　0426-42-7486

オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jp/

受付日時　AM 9:30～17:00

（土・日・祭日・および当社休日を除く）

●お問い合わせいただく前に（お願い）

- より迅速、正確にお答えするために、お手数ですが次ページのサポート用カルテの内容をあらかじめご確認ください。
- FAXまたは郵便でお送りいただく場合は、所定の項目は必ずご記入ください。

送付先：オリンパス光学工業株式会社カスタマーサポートセンター

FAX 0426-42-7486

弊社整理番号：

サポート用カルテ

お名前	フリガナ
連絡先 ご住所	□自宅　□会社 〒

お問い合わせ日　年　月　日	お買い上げ日：　年　月　日
製品名（型番）	
シリアル番号 （製品底面に記載されています）	

パソコンが関係する問題は、とくに正確な状況把握が難しいので、お手数ですができるだけくわしくご記入ください

●ご使用のパソコンの種類：

（メーカー・型番等）

●メモリの容量：

●ハードディスクの空き容量：

●OS名とバージョン：

●ご使用のパソコンのドライバ：

（Mac OSの場合）コントロールパネルや機能拡張の内容：

（Windowsの場合）コントロールパネル－デバイスマネージャーの内容：

●その他接続されている周辺機器名：

●問題のご使用アプリケーションソフト名：

バージョン：

●問題のご使用弊社ソフト名：

バージョン：

問題が発生したときの症状・表示されたメッセージ・症状の再現性など：
（より正確・迅速にお答えするために、できるだけくわしくご記入ください）

※FAXや郵便でのお問い合わせの際は、コピーしてご利用ください。

仕様・用語

- ●仕様一覧
- ●こんな用語が知りたい

仕様一覧

形式	： デジタルカメラ(記録・再生型)
記録方式	： デジタル記録、JPEG(DCF準拠)/DPOF対応
記録媒体	： 3V(3.3V)スマートメディア、4MB、8MB、16MB、32MB、64MB、128MB
記録コマ数	： 約8枚(SHQモード／8MBカード) 約24枚(HQモード／8MBカード) 約82枚(SQ標準モード／8MBカード)
消去	： 1コマ消去、全コマ消去
撮像素子	： 1/3.2型(インチ) CCD固体撮像素子 131万画素(総画素数)
記録画素数	： 1280×960ピクセル(SHQ・HQモード) 640×480ピクセル(SQモード)
ホワイトバランス	： フルオートTTL、 プリセット(晴天、曇天、電球、蛍光灯)
レンズ	： オリンパスレンズ5mm～15mm、 F2.4(W)/4.3(T)、7群8枚(35mmフィルム換算38mm～114mm相当)
測光方式	： 撮像素子によるデジタルESP測光方式
露出制御方式	： プログラム自動露出
絞り＊	： F2.4/F5、F4.3/F9
シャッター＊	： 1/2～1/1000秒(メカニカルシャッター併用) ＊マニュアル設定はできません。
連写	： 2コマ/秒　最大4コマ
撮影範囲	： 0.5m～∞(通常モード) 0.2m～0.5m(マクロモード)
ファインダ	： 光学実像式ファインダ (AFターゲットマーク)、 液晶モニタ
液晶モニタ	： 1.5型(インチ)TFTカラー液晶
モニタ画素数	： 約118000画素
オンスクリーン表示	： 日付時刻、コマNo.、プロテクト、画質モード、 電池残量、ファイルNo.、プリント予約、 メニュー、他
フラッシュ充電時間	： 約10秒以下(常温時、新品電池使用)

フラッシュ撮影範囲	：約0.2m～3.5m（W）
フラッシュモード	：オート発光（低輝度時自動発光、逆光時自動発光）、赤目軽減発光、強制発光、夜景、発光禁止
オートフォーカス	：TTL方式AF
検出方式	：コントラスト検出方式／焦点調節範囲：0.2m～∞
セルフタイマ	：作動時間約12秒
外部コネクタ	：DC入力端子、データ入出力端子（USB）、ビデオ出力端子（NTSC方式）
日付・時刻	：画像データに同時記録
自動カレンダー機能	：2001～2031年の範囲で自動修正
カレンダー用電源	：内蔵キャパシタによるバックアップ
カード機能	：DPOF対応プリンタ予約
使用環境	
温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90%（動作時）／10～90%（保存時）
電源	：CR-V3リチウム電池パック（当社製LB-01）1個。あるいはニッケル水素電池、ニッカド電池、単3アルカリ電池（*）2本。もしくは専用ACアダプタ。 単3マンガン電池および市販の単3リチウム電池は使用できません。 ＊アルカリ電池は性能のバラツキが大きく、とくに低温では劣化します。リチウム電池パックまたはニッケル水素電池のご使用をおすすめします。
大きさ	：幅112mm×高さ62mm×厚さ35mm（突起部含まず）
質量	：185g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

こんな用語が知りたい

1コマ消去	撮影した写真を1枚ずつ消すことです。	P.52
ACアダプタ	家庭用100V電源が使えます。パソコンと接続する時など、長時間カメラをご使用になる時にはご使用をおすすめします。	P.78
DPOF	ラボなどでプリントする時のための共通記録方式です。	P.80
USBケーブル	カメラとパソコンを手軽に接続できるコードです。	P.86

あ		
赤目軽減発光	人の目が赤く写る現象を軽減します。	P.63
液晶モニタ	カメラ背面のモニタです。再生のほか、ファインダとして使えます。カメラのメニュー設定もこのモニタを見て行います。	P.44
エラーメッセージ	使い方が正しくないと表示されます。	P.99
オート発光	暗い時に自動的にフラッシュが光ります。	P.63

か		
カード	画像を記録するスマートメディアのことです。	P.28
カードプリント予約	どの画像を何枚プリントするかなどをカードに設定できます。	P.82
画質モード	画像のきめ細かさを3段階選べます。画質が高いほどデータ量が多くなり、撮影できる枚数は少なくなります。Eメールで送る時は低画質(SQ)、大きくプリントしたりパソコンで加工する時は高画質(SHQ)が有利です。	P.60
逆　光	撮りたいものの背後から強い光があたっている状態のことです。	P.63
強制発光	どんな時でもフラッシュを光らせます。	P.63
光学ズーム	撮りたいものを拡大して撮影できます。ある範囲内で焦点距離を変えることで被写体を拡大する方法。画質が粗くなることはありません。	P.65
コマNo.	撮影した順に画像につけられたナンバー。	P.50

さ		
再生用の「メニュー」	撮影した画像を再生して見る時、使える機能を選択できます。	P.98
撮影可能枚数	あと何枚撮れるかが、液晶モニタに表示されます。カードの種類と画質モードによって撮影可能枚数は変わります。	P.29
撮影用の「メニュー」	撮影する時に使える機能が選択できます。	P.98
自動再生	スライドショーのように次々と画像が見られます。	P.54
初期化(フォーマット)	カードをこのカメラで使用できるようにすることです。初期化すると、カードに入っている画像はすべて消去されます。フォーマットともいいます。	P.30
スマートメディア	画像を記録するカードのことです。	P.28
セルフタイマー	シャッターボタンを押してから約12秒後に写します。	P.68
全コマ消去	カードに記録されている画像を全部いちどに消します。	P.53
ソフト	パソコンでいろいろな処理をするためのプログラムです。	—

た		
デジタルESP	画像の露出をデジタル方式で自動的に決定してくれます。	—
デジタルズーム	撮りたいものを拡大して撮影できます。 記録する画像の中央部分を切り出してその部分だけを記録することであたかも拡大したように見せる方法。光学ズームより画質が粗くなります。	P.66

は		
発光禁止	フラッシュが使えない美術館などや、フラッシュの光が届かないスタジアムなどでは、フラッシュがオートで光らないようにできます。	P.64
半押し	シャッターボタンを半分押し込むこと。露出とピントが合い、そのままの状態で固定されています。さらに押し込むとシャッターが切れます。	P.38

ビープ音	シャッターを切ったあとや警告の時になる「ピピッ」という音です。	P.75
フォーカスロック	シャッターボタン半押しの状態。ピントが固定され、そのまま他にカメラを向けて撮影できます。ピントを合わせたいものが画面中央にない時などに使うと便利です。	P.46
フォーマット	カードをカメラで使えるように初期化することです。	P.30
プロテクト	カードに保存した画像を誤って消してしまわないようにする設定です。	P.56
ホワイトバランス	自然な色合いに見えるように画像の色を調整することです。オートで設定されていますが、自分で選ぶこともできます。	P.73
ま		
マクロ撮影	撮りたいものに近づいて大きく撮影することです。0.5m以内で撮影する時はマクロ撮影モードにして撮影してください。	P.67
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調節できます。	P.58
や		
夜　景	夜景などが写るようシャッタースピードを遅くしながら、フラッシュを光らせることです。手前の人物も背景の夜景も写しこめます。	P.64
ら		
連　写	シャッターボタンを押しつづけている間、連続して最大4コマ(2コマ／秒)まで撮影できるモードです。	P.69
露出補正	カメラが自動的に決めた露出を、明るくしたり暗くしたりできます。	P.71

OLYMPUS®

オリンパス光学工業株式会社

〒163-8610　東京都新宿区西新宿1の22の2　新宿サンエービル

アクセスポイント（製品に関するお問い合わせ）

札　幌	011-231-2338	金　沢	076-262-8259
仙　台	022-218-8437	大　阪	06-6252-0506
新　潟	025-245-7343	高　松	087-834-6180
松　本	0263-36-2413	広　島	082-222-0808
東　京(八王子)	0426-42-7499	福　岡	092-724-8215
静　岡	054-253-2250	鹿児島	099-222-5087
名古屋	052-201-9585	沖　縄	098-864-2548

※上記のアクセスポイントまでお電話いただければ、オリンパスカスタマーサポートセンターに転送されます（アクセスポイントまでの電話料金はお客様負担となります）。なお、調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30〜17：00（土・日曜、祝日および弊社休業日を除く）

※オリンパスホームページ　http://www.olympus.co.jpでデジタルカメラおよび関連製品の情報の提供をしております。

国内サービスステーション（修理受付窓口）

※土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町1の3の1　小川町三井ビル(オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北4条東1の2の3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央1の13の4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒950-0087	新潟市東大通り2の4の10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
松　本	〒390-0815	松本市深志1の2の11　松本昭和ビル	Tel.0263(36)5331
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦2の19の25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
金　沢	〒920-0024	金沢市西念1の1の3　コンフィデンス金沢	Tel.076(262)8257
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場2の12の26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
高　松	〒760-0007	高松市中央町11の11　高松大林ビル	Tel.087(834)6166
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀16の11　日本生命広島第2ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通3の6の11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466
鹿児島	〒892-0846	鹿児島市加治屋町12の7　日本生命加治屋町ビル	Tel.099(225)1105
沖　縄	〒900-0015	那覇市久茂地3の1の1　日本生命那覇ビル	Tel.098(864)5396

VT277403